



第3号

IDF 酪農乳業における 女性に関する報告書



目次

「酪農乳業における女性に関する IDF 特別作業部会」共同委員長からのメッセージ 4	ウーマン・イン・ブルー、デラバル社における女性人材のエンパワメント 22
酪農乳業バリューチェーンにおける女性のエンパワーメント：ジェンダー平等への IDF のグローバルな貢献 6	優良農業プラクティス：酪農乳業における女性の力を解き放つプロジェクト 24
未来の酪農乳業リーダーの育成：酪農乳業科学教育の強化と女子学生の成功支援 8	デーリー・ウーマン・アイルランド：アイルランドの酪農乳業セクターの女性をつなぎ、エンパワメントを行う活気ある組織 26
クリーム・オブ・ザ・クロップ：酪農に従事する農村女性を称え、鼓舞し、教育しよう 11	女性による、より良い基準と持続可能性に向けた酪農乳業のモ〜進 28
見えない存在から欠かせない存在へ：バングラデシュの女性酪農家によるインクルージョンの推進 13	女性畜産労働者：酪農起業による農村女性のエンパワメント ... 31
「ウーマン・イン・キャトル」イニシアチブ：チリの畜産セクターにおける女性のリーダーシップと持続可能性の促進 16	女性たちが先導する：ジュンレバオが科学的・技術的・エンパワーメント型イノベーションで酪農乳業チェーンを再構築 33
女性飼料協同組合による持続可能な酪農乳業の未来の構築 - シャクティファーム飼料生産者協同組合の事例 18	エンパワメントとの出会い - インドにおける女性主導の酪農による変革の物語 37
酪農乳業における先駆的な女性たちへの賛辞 20	

この出版物について

国際酪農連盟（IDF）は「酪農乳業における女性に関する報告書」において、酪農乳業セクターで働く女性のエンパワメント（地位向上）のため、世界中の取り組みを調査しています。本出版物では、女性たちが支援を受けながらどのように活躍し、変革をもたらす食料システムの課題に取り組んでいるかについて知見を提供しています。中でも、国連の持続可能な開発目標 SDG 5「ジェンダーの平等を達成し、すべての女性と女児のエンパワメントを図る」につながるさまざまなイニシアチブや研究に注目しています。この報告書は、農場経営や処理・加工から研究、教育、政策、ガバナンスに至るまで、酪農乳業バリューチェーン全体にわたる幅広い活動をカバーしており、世界的なジェンダー平等の推進と持続可能な開発の促進に対する酪農乳業セクターのコミットメントを示しています。

引用表記

International Dairy Federation. (2025). *IDF Women in Dairy Report* (Issue N° 3).
<https://doi.org/10.56169/GIGV1863>

複製表記

© 国際酪農連盟（AISBL）2025年10月。この出版物のすべてまたは一部の著作権は、IDF に帰属します。この文書内で明示的に許可された場所と範囲以外は、IDF の書面による許可無しで、または既存のライセンスのルールに沿わずに、この著作のいかなる部分も複製することや、図表的、電子的、または機械的な、複写、録画、テープ録音またはウェブ配信などのいずれの形態や手段によっても使用できません。

翻訳（仮訳）：一般社団法人 J ミルク

編者注：仮訳の正確性、完全性、有用性等についてはいかなる保証をするものではありません。

参考資料として扱い、内容に疑義が生じた場合は英文の原文をご確認ください。

はじめに

国際酪農連盟 (IDF) は、第3版となる『IDF 酪農乳業における女性に関する報告書』を発表できることを誇りに思います。これは、世界の酪農乳業セクターにおけるジェンダー平等、多様性、女性と女兒のエンパワメントの重要性を我々が認識している証です。本年発行の報告書には、世界のあらゆる地域から寄せられた14本の記事を収録し、酪農乳業セクターにおける女性の貢献の驚くべき広さと深さを反映しています。

今回のハイライトは新セクション「酪農乳業における先駆的な女性たちに対する賞賛」です。このセクションでは、その先見性、不屈の精神、リーダーシップによって業界を形作り、世代を超えて人々を鼓舞してきた歴史的先駆者たちを称えます。これらの先駆者たちを称えることで、私たちは彼女たちの功績だけでなく、今日の酪農に携わる女性たち、そして未来の女性たちに向けて築かれた遺産をも祝福します。

IDF がジェンダー平等推進に意欲的な背景には、国連の持続可能な開発目標 (SDGs)、特に SDG 5 との整合性があります。我々は、「酪農乳業における女性に関する IDF 特別作業部会」の献身的な活動を通して、女性のエンパワメントを促進する取り組みを継続的に強調しています。これらは「インクルージョン (多様性が尊重され、機能している環境・状態、ジェンダーの平等)」を推進し、最終的に持続可能な食料システムの進化を推進する助けとなるでしょう。女性のエンパワメントは、SDG 5 との整合性だけでなく、影響力を最大化し、好ましい成果を生み出すための重要な手段であることをデータが示しています。今年、IDF は国連食糧農業機関 (FAO) の「平等を育む取り組み (Commit to Grow Equality)」イニシアチブを支援するパートナーとして協働し、これにより世界中の酪農乳業セクターにおける女性の影響力がさらに拡大されることを誇りに思っています。

本年は IDF 戦略の転換点でもあります。真の持続可能性は製品やプロセスを超えた領域に及ぶことを認識し、私たちは文化と人材への重点をさらに強化します。「文化と人材」を新戦略の柱と位置付けることで、IDF は包括的で公平かつ多様な酪農乳業セクターの育成に尽力します。世界の乳業関係者の皆様には、この取り組みにご参加いただきたく存じます。科学的データ、ベストプラクティス、そして乳業を支える人々の文化的側面を明らかにする実体験を共有し、共に歩んでいきましょう。

本報告書で示された知見を検討されるにあたり、私どもが成し遂げた進展、残された課題、そして世界中の女性と女兒が酪農乳業セクターで自らの可能性を最大限に発揮できるよう、私どもが共有する集団的責任について、ぜひご検討ください。共に、「インクルージョン」を推進し、卓越性を称え、すべての人々のためのより強靱で公平な未来を築き続けましょう。

IDF を代表し、本活動を実現してくださった全ての貢献者の方々に心より感謝申し上げます。

ローレンス・ライケン (Laurence Rycken)

IDF事務総長



「酪農乳業における女性に関する IDF 特別作業部会」 共同委員長からのメッセージ

世界中で、農業分野における女性の参画は、望ましいだけでなく、不可欠となっています。女性は、農業バリューチェーンのあらゆる面に専門性や革新性、リーダーシップをもたらします。特に酪農乳業セクターでは、最先端の科学・研究の推進から事業開発の牽引、農場の管理・運営、食品の品質と安全性の確保に至るまで、女性の貢献は極めて重要かつ多岐にわたります。

明白なエビデンスがあります：多様性は好ましい結果をもたらします。データは、性別・民族・年齢の多様性を持つチームは、多様性に欠けるチームよりも優れた意思決定を行い、より高い収益性を達成することを一貫して示しています。これは、酪農乳業セクターのあらゆるレベルで女性が完全に支援され、エンパワメントされることの重要性を裏付けるものです。

だからこそ、本出版物は非常に価値があります。世界中で実施されている、「インクルージョン」を広め、**持続可能な開発目標5（ジェンダー平等を実現しよう）**を推進する数多くの取り組みやプログラムを改めて浮き彫りにしています。これらの事例は、機会を創出し、障壁を取り除き、酪農乳業における女性の極めて重要な役割を認識するにあたり、当セクターの創造性と献身を示しています。



世界中で、女性たちは専門知識、時間、資源、経験、そして思いやりを捧げ、世界の発展に寄与する多様な状況に貢献し続けています。この最新の IDF 報告書は、そうした多くの事例を紹介しており、ヨーロッパからアフリカ、アメリカ大陸、オセアニア、アジアに至る世界中の酪農乳業における現実の課題と成功事例を共有できることを大変嬉しく思います。



本報告書にこれほど幅広い貢献が寄せられたことを大変嬉しく思います。このような出版物は進歩を称えるだけでなく、継続的な行動を促すものです。ご自身の研究を共有してくださった全ての貢献者の方々と、この重要な資料をまとめ上げたIDFチームに心より感謝申し上げます。

ジュディス・ブライアンス博士 (Dr. Judith Bryans)

デーリー UK 最高責任者 (Chief Executive, Dairy UK)

「酪農乳業における女性に関する IDF 特別作業部会」共同委員長

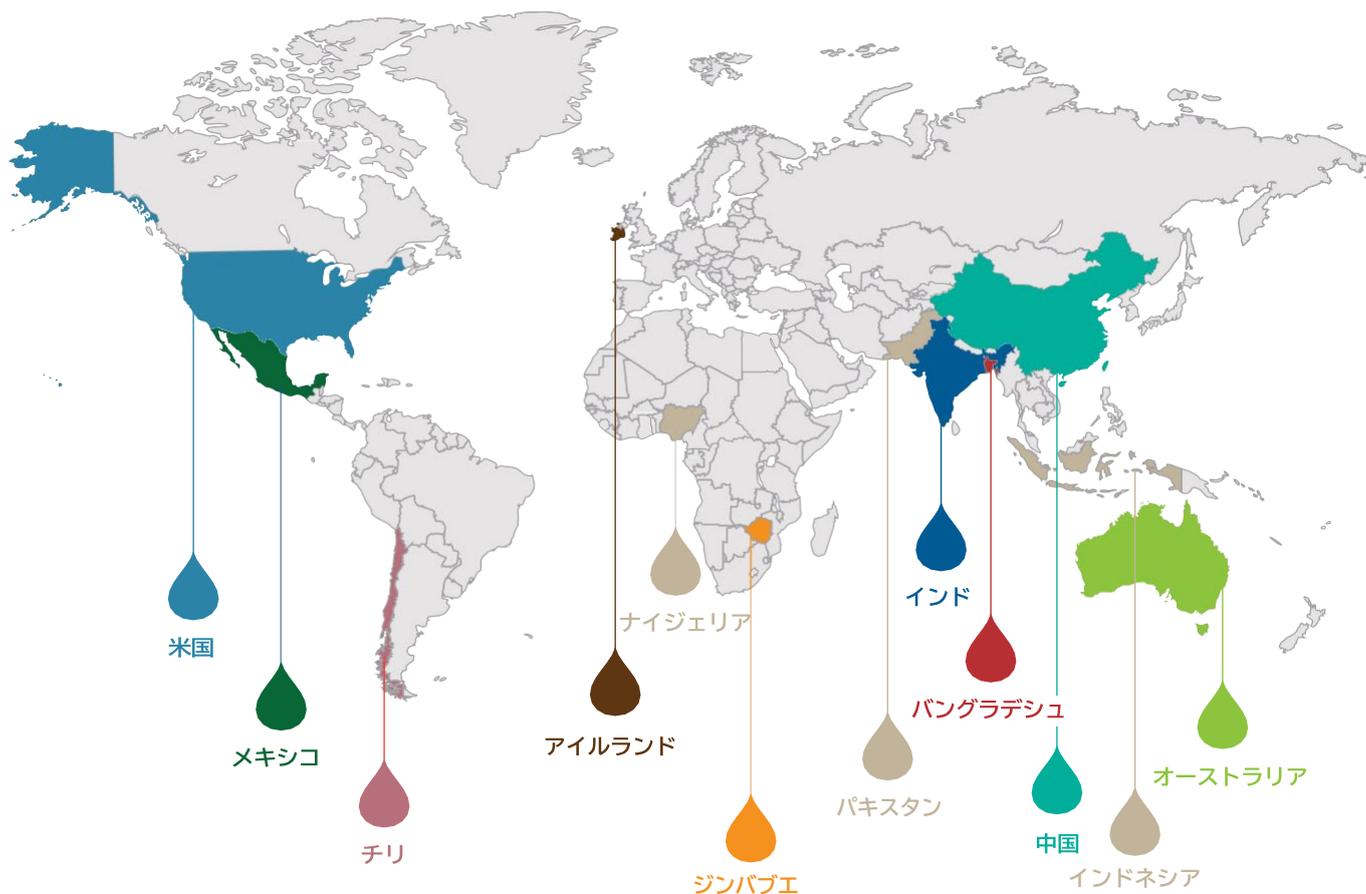
それでもなお、私たちはこの取り組みを続け、決して諦めてはなりません。世界中の酪農乳業に携わる女性たちの力と献身は、年を追うごとに知識と実践経験を増し、これからの時代と次世代のための礎を築いています。

世界の酪農乳業に携わるすべての女性たちへ、あなた方が成し遂げていること、そしてその姿勢に感謝します。あなた方は私たち全員に絶えず勇気を与えてくれます。

感謝を込めて

リンダ・マクドナルド (Ms Lynda McDonald)

「酪農乳業における女性に関する IDF 特別作業部会」共同委員長



グローバル

IDF - 酪農乳業バリューチェーンにおける女性のエンパワーメント：ジェンダー平等への IDF のグローバルな貢献

各国 - 酪農乳業における先駆的な女性たちに対する賞賛

- 見えない存在から欠かせない存在へ：バングラデシュの女性酪農家によるインクルージョンの推進
- 優良農業プラクティス：酪農乳業における女性の力を解き放つプロジェクト
- 「ウーマン・イン・キャトル」イニシアチブ：チリの畜産セクターにおける女性のリーダーシップと持続可能性の促進
- 女性たちが先導する：ジュンレバオが科学的・技術的・エンパワーメント型イノベーションで酪農乳業チェーンを再構築
- 女性による、より良い基準と持続可能性に向けた酪農乳業のモ〜進
- 女性飼料協同組合による持続可能な酪農乳業の未来構築 - シャクティファーム飼料生産者協同組合の事例
- エンパワーメントとの出会い - インドにおける女性主導の酪農による変革の物語
- クリーム・オブ・ザ・クロップ：酪農に従事する農村女性を称え、鼓舞し、教育しよう
- 女性畜産労働者：酪農起業による農村女性のエンパワーメント
- デーリー・ウーマン・アイルランド：アイルランドの酪農乳業セクターの女性をつなぎ、エンパワーメントを行う活気ある組織
- 未来の酪農乳業リーダーの育成：酪農乳業科学教育の強化と女子学生の成功支援
- ウーマン・イン・ブルー、デラバル社における女性人材のエンパワーメント

IDF

酪農乳業バリューチェーンにおける女性のエンパワーメント：ジェンダー平等への IDF のグローバルな貢献

寄稿者

アナベル・ムレット・カベロ (Anabel Mulet Cabero)、
国際酪農乳業連盟 (IDF)

全体像

女性は酪農乳業セクターを含む農業食品システムにおいて重要な役割を担っており、生産、加工、流通の全段階で大きく貢献しています。しかし、その労働は非正規雇用、低賃金、意思決定権の制限といった特徴から、しばしば過小評価されています。このジェンダー格差は女性の生計を損なうだけでなく、酪農乳業バリューチェーン全体の強靱性と生産性を損ないます。ジェンダー平等の進展を加速させることは、持続可能な開発目標 (SDGs) の達成、特に目標 1 (貧困をなくそう)、目標 2 (飢餓をゼロに)、目標 5 (ジェンダー平等を実現しよう) の達成に不可欠です。

さらなる進展も必要であることから、国連食糧農業機関 (FAO) が主導する「[成長と平等へのコミットメント](#)」(Commit to Grow Equality)イニシアチブでは、対象を絞った行動とパートナーシップを通して、ステークホルダーが女性のエンパワーメントに投資するよう促しています。

酪農乳業セクターにおいては、女性の貢献を認識し、女性の資源や指導的立場へのアクセスを改善し、多様性を認める方針を策定することが求められます。酪農乳業における女性のエンパワーメントは、持続可能で公平かつ強靱な食料システムへの戦略的投資です。

前提

IDF は、農業食品システム全体における女性の貢献に対する認識を高めるとともに、女性のリーダーシップとジェンダーの平等を促進しています。この取り組みは、女性の正規参加と女性の尊重によって強靱性や生産性、持続可能性を高めることで酪農乳業バリューチェーンを強化しています。



IDF 酪農乳業における女性ラウンドテーブル シカゴ 2023

© IDF

「酪農乳業セクターは SDG 5 (ジェンダー平等を実現しよう) を推進しており、持続可能な未来に不可欠な要素として認識しています。事例研究を共有することで、行動を促し、その重要性を示し、女性のエンパワーメントの利点を強調することを目指しています。」

ローレンス・ライケン、IDF 事務局長

進行中の取り組み

IDF は、世界の酪農乳業バリューチェーンにおける女性の可視性と影響力を強化するため、2022年に「酪農乳業における女性に関する特別作業部会」を設立しました。特別作業部会の目的は以下の通りです：

- 酪農乳業セクターの全分野における女性の役割と貢献を浮き彫りにする事実と事例を収集し、知識のギャップを埋めます。

- 科学、農業、食品産業における女性のロールモデルを紹介し、次世代を鼓舞します。
- 酪農乳業セクターにおける女性の専門性習得とキャリア形成を支援するグローバルネットワークを提供します。

特別作業部会には現在、世界各国の多様な地域から25名のメンバーが参加しています。

成功の歴史

IDF は、FAOのイニシアチブ「2025年までに平等を広める取り組み (Commit to Grow Equality in 2025)」のパートナーとなりました ([こちらをご覧ください](#))。IDFの取り組みは、酪農乳業バリューチェーンのあらゆる面における女性の役割と、酪農乳業全般における女性自身のエンパワーメントへの貢献を浮き彫りにする事実や事例を収集・共有することを目的としています。この取り組みの中核をなすのが、IDFの基幹刊行物『IDF酪農乳業における女性に関する報告書 (IDF Women in Dairy Report)』です。本報告書は、SDG 5に関連する多様な取り組みや研究を紹介し、酪農乳業バリューチェーン全体 (酪農・乳業から研究、政策、ガバナンスまで) を網羅しています。過去の出版：

- [IDF 酪農乳業における女性に関する報告書 2023](#)
- [IDF 酪農乳業における女性に関する報告書 2024](#)

IDFは他の活動からもこの分野を支援しています：

1. イベント：

国際女性デー (3月8日) を記念したバーチャルウェビナー：取り組み、枠組み、事例研究を紹介

- [ウェビナー 2023](#)
- [ウェビナー 2024](#)
- [ウェビナー 2025](#)

世界のステークホルダーが一堂に会し、酪農乳業における女性の課題と機会について議論する対面イベント：

- 酪農乳業における女性円卓会議 シカゴ 2023 (図 1)
- 酪農乳業における女性円卓会議 パリ 2024 (図 2)

2. IDF 酪農乳業における女性に関する知識ハブ

酪農乳業におけるジェンダー平等を支援するリソース、事例研究、ツールを提供する [一元化されたプラットフォーム \(centralized platform\)](#)。

3. IDF デーリーイノベーションアワード

世界中の酪農乳業バリューチェーンにおける女性のリーダーシップ拡大を促進する革新的な取り組みを表彰するため、「[女性のエンパワーメントにおけるイノベーション \(Innovation in Women Empowerment\)](#)」という新カテゴリーが追加されました。

4. ネットワーキングプラットフォーム：

「ディスコード」 - [IDF 酪農乳業における女性フォーラム \(IDF Women in Dairy Forum\)](#)

5. その他の出版物：

[IDF ファクトシート N° 26/2023](#)：女性の栄養的エンパワーメントにおける酪農乳業

本イニシアチブの意義

IDF は、「酪農乳業における女性に関する報告書」や、ウェビナー、円卓会議、表彰、知識共有プラットフォームなどの補完的取り組みを通して世界的なイニシアチブを紹介することで、認知度向上だけでなく、酪農乳業セクター全体での行動促進を目指しています。これらの活動は、ジェンダー平等と持続可能な発展を促進する多様性を尊重する取り組み方の採用を呼びかける役割を果たしています。



米国

未来の酪農乳業リーダーの育成：酪農乳業科学教育の強化と女子学生の成功支援

寄稿者

グレース・ルイス (Grace Lewis)、 Wisconsin 大学リバーフォールズ校
(University of Wisconsin - River Falls) ・米国

✉ grace.lewis@uwrf.edu

全体像

酪農科学専攻における学生の継続就学および卒業後の酪農乳業関連への就職を促進する要因を理解することは、業界の発展に不可欠です。しかし、特に女子学生の継続就学率のデータはしばしば見過ごされがちです。同時に、酪農乳業セクター全体で女性のリーダーシップ職への進出は依然として低水準であり、より公平なキャリア機会を創出するための意図的な取り組みの必要性を浮き彫りにしています。本取り組みでは、学生の継続率と卒業後のキャリア継続に影響を与える要因を分析し、特にメンタルヘルスサービスにおける男女学生間の支援認識格差に焦点を当てています。また、大学教育における学習成果の向上と学生支援強化のための戦略を特定します。

前提

目標は、革新的な教育、「インクルージョン」支援、学生の成功と幸福度を高める戦略を通して次世代の女性酪農リーダーを育成するために必要なベストプラクティスを特定することです。

進行中の取り組み

Wisconsin 大学リバーフォールズ校では、学部生の大半が女性であり、この傾向は農業科学関連の学位プログラムでも同様です。実際、多くの大学で農業関連分野の学生数は統計的に女性の方が男性を上回っていますが、酪農乳業セクターにおける女性のリーダーシップ職への進出率は依然として懸念されるほど低いままです (Allen, 2023)。

「農業関連分野で大学・短大卒業以上の学位を目指す女性が増えるにつれ、酪農乳業セクターにおいて女性のリーダーシップ職への進出を強化できる可能性が高まっています。究極の目標は、革新的な教育、インクルージョンの支援、学生の成功とウェルビーイングを高める戦略を通して次世代の女性の酪農乳業リーダーを育成することです。」

グレース・ルイス氏

この格差を理解するための意図的な取り組みが必要であり、それは大学教育における課題の評価から始まり、学生の学業キャリアを通して、そしてそれ以降もより良く支援するための実現可能なアプローチを明らかにすることから始まります。

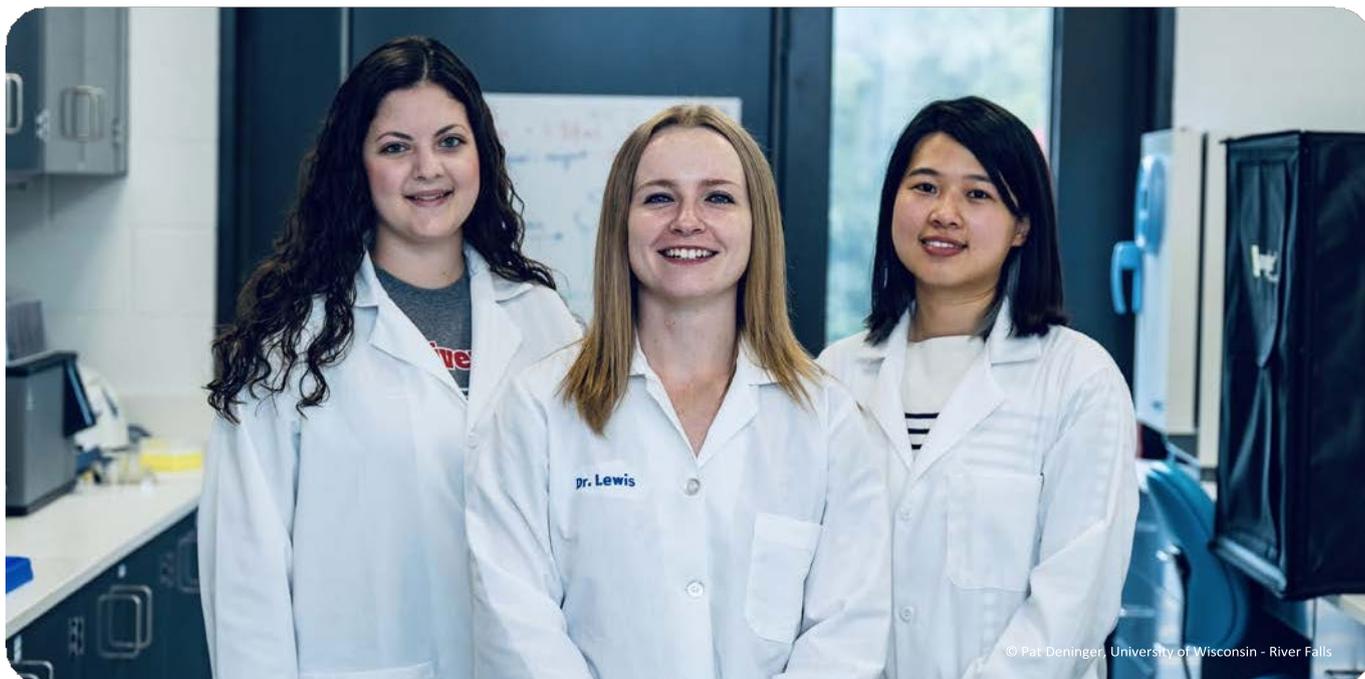
成功の歴史

本研究の大部分は徹底的な文献レビューとして完了し、米国酪農科学協会年次総会での発表に至りました。その後、本成果を Journal of Dairy Science Communications 誌 (Grace, 2025) に執筆・掲載するよう要請を受けました (図1 図解要約を参照)。

科学系ジャーナルとしては比較的異例の掲載形態でしたが、Cheese Reporter などによる報道など、大きな注目を集めました。教育関係者や雇用主には、特に報告されているジェンダー格差を考慮し、本研究の知見を革新的な教育戦略の適用やインクルージョン支援の提供に活用することが望まれます。

本イニシアチブの意義

本研究は、多くの知見が得られていますが、中でも男女学生間におけるメンタルヘルス関連の懸念の格差を明らかにしています。女性学生は、不安、トラウマ、抑うつ症状、自傷行為、自殺未遂の報告が男性学生より高い傾向が示されています。また、学生の継続・定着を促すための方策として、熱意ある授業、能動的学習、高い教育効果をもたらす実践、キャリア探索などが有効であることも示唆されています。



グレース・ルイス博士（中央）が運営する乳加工・イノベーション研究所の学部生研究員（左：ケイト・ピーターセン氏、右：イホン・デン氏）。同研究所は、食品および医薬品製剤への応用を目的とした乳製品および乳由来成分の機能性向上と付加価値向上に関する研究を行っている。

この取り組みは、教育者や業界リーダーに酪農乳業セクターで女性が直面する特有の課題に関する知見を提供し、ウェルビーイングと成功を支援する目的を絞った戦略の実施を可能にします。こうした取り組みは、酪農乳業科学分野において少数派グループが継続的に活動する助けとなります。

今後の展開と機会

本イニシアチブを通して、研究成果を広く一般に発信する機会を数多く得ました（下記出版物・プレスリリース参照）。最近ではDairy Digressionsポッドキャストでも本研究について質問を受けました。今後もこうした機会を積極的に活用していきます。また、米国各地の酪農乳業科学プログラムにおいてこの主題を研究するための資金調達も模索し、このテーマに関する新たな洞察に満ちたデータを生み出す予定です。

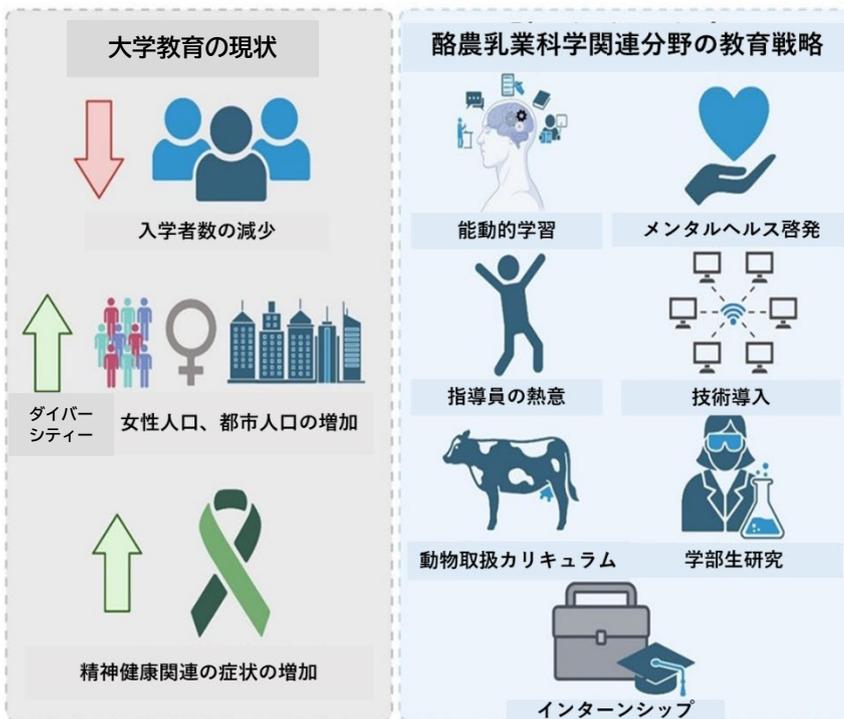


図1. Journal of Dairy Science Communications 掲載論文 (Grace, 2025) の図解要約 - BioRender.comで作成

詳細情報

発表要旨：[米国酪農科学協会年次総会 \(American Dairy Science Association Annual Meeting\)](#)

ニュースレポート：[チーズ・レポーター \(Cheese Reporter\)](#)、[米国酪農科学協会、エルゼビア \(American Dairy Science Association, Elsevier\)](#)

ポッドキャスト：[デイリー・ディグレッションズ \(Dairy Digressions\)](#)

アレン, K. (Allen, K.) (2023). 酪農乳業には多様性が必要—女性も含まれる (Dairy needs diversity—That includes women). Hoard's Dairyman, <https://hoards.com/article-34351-dairy-needs-diversity--that-includes-women.html>. 公開日: 2023年, アクセス日: 2024年11月1日.

グレース, L. (Grace, L.) (2025). 女子学生に焦点を当てた酪農乳業科学分野における現代の学部生の関与 (Engaging today's undergraduate students in the field of dairy science with a focus on the female student population). JDS Communications, 第6巻, 第1号, 175-179. DOI: [10.3168/jdsc.2024-0647](https://doi.org/10.3168/jdsc.2024-0647).



オーストラリア

クリーム・オブ・ザ・クロップ：酪農に従事する農村女性を称え、鼓舞し、教育しよう

寄稿者

ルーシー・コリンズ (Lucy Collins)、レナータ・カミングス (Renata Cummings)、
クローエ・ブラウン (Chloe Brown)、ジェス・ブラウン (Jess Brown) -
クリーム・オブ・ザ・クロップ (Cream of the Crop)・オーストラリア

✉ creamofthecropau@gmail.com

全体像

クリーム・オブ・ザ・クロップは、4人のオーストラリアの酪農家とサービス提供者が主導する草の根イニシアチブであり、酪農乳業セクターで働く農村部の女性を称え、鼓舞し、教育することを目的としています。女性の声を増幅させ、自信を育み、酪農乳業バリューチェーン全体でのリーダーシップを促進するプラットフォームを構築することで、SDG 5（ジェンダー平等を実現しよう）を直接的に支援します。本会議は、農場、サービス業務、加工、教育、ガバナンスに携わる女性同士のつながりを育み、業界における多様な貢献を浮き彫りにします。クリーム・オブ・ザ・クロップは、ストーリーテリング、専門能力開発、コミュニティ構築によって女性をエンパワーメントすることで、多くの農村女性が直面する参加とリーダーシップの障壁に対処します。また女性の役割の可視化を促進し、次世代リーダーの育成を支援します。業界のニーズに応じて毎年進化するテーマにより、農村コミュニティの社会的結束を強化しつつ、酪農乳業セクターにおけるジェンダー平等と能力向上を推進します。

前提

クリーム・オブ・ザ・クロップは、学習・ストーリーテリング・リーダーシップのための総合プラットフォームを提供し、酪農乳業セクターの農村女性をエンパワーし、交流させ、高めることを目指します。本イニシアチブは、女性が自信を築き、スキルを磨き、酪農乳業のあらゆるレベルにおける自身の価値と可能性を認識する手助けをします。

進行中の取り組み

クリーム・オブ・ザ・クロップは、酪農に従事する地方の女性たちが交流し、成長するための専用の場の必要性を認識したビクトリア州の4人の酪農家とサービス提供者によって、2022年に設立されました。2日間にわたる最初の会議はポートキャンベルで開催され、基調講演、双方向ワークショップ、ネットワーキングの機会が提供されました。非常に好意的な評価を受けたこの取り組みは、毎年、酪農地域を巡回して開催されるイベントとなりました。毎年、業界の現在のニーズを反映してテーマが進化しており、後継者問題、安全、ストーリーテリング、ガバナンスなどのトピックが取り上げられています。

この取り組みは酪農家が全面的に主催しており、スポンサー、奨学金、そして強力なコミュニティや業界の関与によって支えられています。

成功の歴史

2022年以来、クリーム・オブ・ザ・クロップは300人以上の参加者を迎え、さらに2025年には125名が参加し、酪農乳業サプライチェーン全体と農村コミュニティから女性を集めています。参加者は自信を深め、つながりを感じ、リーダーシップ役割への意欲が高まったと報告しています。本イニシアチブは強力なスポンサー支援と業界の認知を獲得し、奨学金制度によって若手女性の参加を実現しています。多くの参加者が、公の場での発言役、ガバナンス職、農場や地域社会における責任拡大へと進出しています。本会議の成功は、酪農乳業セクターの女性向けリーダーシップ育成において、地域主導のピア・リーダーシップ教育の価値を実証しています。



エチューカーモアイベント 2024

© Cream of the Crop

「私たちは、女性が業界で十分に尊重され、目標達成に役立つ個人的および職業的な成長の機会を得られるよう、必要で有意義な対話を行うことを決意しています」

– ルーシー・コリンズ (Lucy Collins)、クリーム・オブ・ザ・クロップ共同創設者

本イニシアチブの意義

クリーム・オブ・ザ・クロップは、知識を共有し、自信を与え、リーダーシップスキルを育成する支援の場を創出することで、酪農に携わる地方の女性たちを独自のやり方で称え、地位を向上させるのに貢献しています。その成功は、草の根の農家主導のアプローチ、つまり、伝統的に男性が支配する分野において、真のつながりとエンパワメントを育むことに由来しています。主な課題としては、地理的な孤立の克服や、酪農業の様々な役割を担う多様な女性たちの参加の促進などがありましたが、多様性を尊重するイベント形式と進行中のコミュニティ構築によって対処しました。このモデルは、地域ごとに適応させることで拡張展開することが可能であり、世界中の他の農村産業における女性のエンパワメントの青写真となっています。

今後の展開と機会

本イニシアチブは、地域イベントやデジタル交流プラットフォームの拡充により活動範囲を拡大し、遠隔参加者のアクセス向上を図ります。また、業界団体やスポンサーとの連携強化により、リソースの確保とメンターシップ機会の拡充を実現します。新たな取り組みとしては、対象を絞った研修モジュールの開発や若年層の参画促進により、酪農乳業セクターにおける将来の女性リーダー育成を目指します。またクリーム・オブ・ザ・クロップは、その多方面にわたる影響力を文書化し、国際的な展開を促進することで、世界中の女性農家に刺激を与えることを目指しています。



ポートキャンベル 2022年創設イベント

© Cream of the Crop



コロイトイベント 2023

© Cream of the Crop

詳細情報:

クリーム・オブ・ザ・クロップ酪農会議 - イベント情報、講演者プロフィール、登録情報を含む公式ウェブサイト。
<https://www.creamofthecropau.com/>

メディア報道・記事:

クリーム・オブ・ザ・クロップが北へ - [オーストラリア酪農ニュース](https://www.dairynewsaustralia.com.au/news/cream-of-the-crop-goes-north/)。エチューカ・モアマで開催された2024年イベント（参加者110名以上）を特集し、カンファレンスの影響力拡大を強調。
<https://www.dairynewsaustralia.com.au/news/cream-of-the-crop-goes-north/>

クリーム・オブ・ザ・クロップが帰ってきた - [オーストラリア酪農ニュース](https://www.dairynewsaustralia.com.au/news/cream-of-the-crop-is-back/)。2023年のイベント再開を特集し、参加者がイベントから受けた刺激とエンパワメントについて語ったコメントを紹介。
<https://www.dairynewsaustralia.com.au/news/cream-of-the-crop-is-back/>

クリーム・オブ・ザ・クロップが帰ってきた - [ウェスタン・ディストリクト](https://www.wdnews.com.au/cream-of-the-crop-returns-2023-02-02)。ニュース 2022年の立ち上げと、創設者たちが共有体験を通して女性たちを結集させるための草の根的な取り組みについて紹介。
<https://www.wdnews.com.au/cream-of-the-crop-returns-2023-02-02>

クリーム・オブ・ザ・クロップの精鋭たちが集う日 - [カントリーニュース](https://www.countyrnews.com.au/dairy/days-out-for-the-cream-of-dairys-crop/)。主催者のプロフィールと、酪農乳業セクターにおける農村部の女性たちを支援する取り組みを紹介。
<https://www.countyrnews.com.au/dairy/days-out-for-the-cream-of-dairys-crop/>

酪農家の女性たちが「クリーム・オブ・ザ・クロップ」カンファレンスで輝く - [ファーム・ウィークリー](https://www.farm-weekly.com.au/news/cream-of-the-crop-returns-2023-02-02)、2024年4月号

イベント&アクセスプラットフォーム

Eventbrite掲載 - [Cream of the Crop 2025](https://www.eventbrite.com.au/e/cream-of-the-crop-2025-tickets-1336599407809)。次回カンファレンスのイベント情報、日程、チケット販売。
<https://www.eventbrite.com.au/e/cream-of-the-crop-2025-tickets-1336599407809>

クリーム・オブ・ザ・クロップのリンクツリー。イベントリソース、メディア報道、ニュースレター、ポッドキャストリンクへのアクセスが可能な中心ハブ。
<https://linktr.ee/CreamoftheCropAU>

バングラデシュ

見えない存在から欠かせない存在へ： バングラデシュの女性酪農家による インクルージョンの推進

寄稿者

セシリー・ラインホルト・クリステンセン (Cecile Reinholdt Christensen)、アーラ・フーズ社 (Arla Foods); アイリーン・クイスト・モーテンセン (Irene Quist Mortensen)、アーラ・フーズ社;
モジボール・ホーク (Moziball Hoque)、ソリダリダッド・ネットワーク・アジア社 (Solidaridad Network Asia Ltd.)

✉ cerei@arlafoods.com

全体像

バングラデシュでは、酪農関連業務の大半を女性が担っているにもかかわらず、その貢献は過小評価され、ほとんど報酬が支払われていません。根強い性別規則、移動の制限、市場・金融・研修へのアクセス制限があり、生乳販売で得た収入は男性の親族に渡るのが通常のため、女性が収入を管理することはできません。この経済的排除が生産性向上への投資を阻み、低収量と経済的依存を固定化しています。地元で販売される生乳の90%を小規模農家（うち93%が非公式取引）が生産する中、女性を公式な酪農乳業バリューチェーンに組み込むことは、食品安全、所得格差是正、持続可能な成長に不可欠です。女性の労働力参加率低下と所得格差拡大を背景に、アーラ・フーズ社とパートナー企業は「グリーン・デーリー・パートナーシップ 2024 (the Green Dairy Partnership 2024)」を立ち上げ、特に女性酪農家を対象とする能力開発、気候変動への耐性強化、市場アクセス拡大に注力してきました。女性をエンパワーし、酪農乳業バリューチェーン全体での効果的な参加とリーダーシップを促進することは、SDG 5を直接支援するものです。

前提

本イニシアチブは、8,000人の女性農家の能力強化を通して、バングラデシュにおける持続可能な酪農乳業バリューチェーンの構築を目指しています。女性を酪農乳業サプライチェーンに統合し、正式に農家として認め、収入管理の権限を付与することに重点を置くことで、ジェンダー平等と経済的エンパワーメントを推進します。

進行中の取り組み

アーラ社の2016年人権評価を起点に、バングラデシュにおける持続可能な酪農乳業開発と栄養支援への長期的な取り組みが開始しました。2020年から2022年にかけて、ソリダリダッド社は「女性酪農家向けデジタル包摂とエンパワーメント」プロジェクトを実施し、デジタルアクセスと女性のエンパワーメントに焦点を当てました。最近の評価

「嫁いでここに来た当初、私の意見は全く考慮されませんでした。新婦は家族の決定に関与できないのです。しかし今では収入を得ているため、土地の購入から家の改修まで、夫も義母もあらゆる事柄について私と相談します。私の意見は今や尊重され、評価されているのです」

では、参加女性の社会的認知度と家庭内影響力が大幅に増加したことが示されました。このプロジェクトと採用された手法は、バングラデシュにおけるグリーン・デーリー・パートナーシップに直接反映されています。2029年まで実施される本プログラムは、南西バングラデシュの農村女性農家を対象とする、地域の実情に合わせた、環境に優しく、気候変動に強い、生産性の高い酪農手法の導入に向けた研修と能力構築を支援します。

成功の歴史

これまでに4,726人の女性酪農家がグリーン・デーリー・パートナーシップに登録し、「アーラの5本柱」に焦点を当てた研修が開始しました。これは農場での排出量削減、生産効率向上、収入改善を目的としています。プロジェクトの成功を支援するため、プラン・デーリー社が、女性農家からの確実な生乳回収を確保するために34の新たな村落生乳回収センターを設立しました。

さらに、イノベーション農場が立ち上げられており、44カ所のうち27カ所が女性が農場責任者を務め、バングラデシュの酪農の未来におけるロールモデルとして活躍しています。

本イニシアチブの意義

本イニシアチブの目標は、女性を酪農乳業バリューチェーンに正式に組み込み、彼女たちが主体性を感じられるようにすることです。女性が酪農乳業セクターで自立した収入源を得られるように支援することに重点を置いています。こうした収入は、家庭内での交渉力や主体性を高めることが示されており、子どもの教育の向上や栄養状態の改善など、家庭全体に良い影響をもたらしています。強靱性に焦点を当てることで、農家は気候変動への適応と緩和を図ることができ、気候変動の影響を最も受けやすい女性にとって、これは特に貴重な取り組みです。



女性が、知識共有や、多様性が尊重される強靱な酪農乳業の未来の形成を主導しています。



クルナ(Khulna)では、女性農家が結束してグリーン・デリー・パートナーシップを立ち上げ、酪農乳業セクターにおける自らの立場を強化しています。

今後の展開と機会

グリーン・デリー・パートナーシップは、今後、対象範囲を30,000人以上の女性酪農家に拡大することを目指しています。重点は、プロセス全体にわたる彼女たちへの研修と支援に置かれます。目標は、これらの女性農家が自らトレーナーとなり、女性間の知識共有と連帯を促進することです。ロールモデルとなることで、効果的な農場経営を実証し、他の人々に刺激を与えます。この取り組みは、「女性酪農家のデジタルインクルージョンとエンパワーメント」プロジェクトの顕著な成果を再現するものです。同プロジェクトでは、女性農家の収入が大幅に増加し、家庭や地域社会において新たな役割と機会を得ることができています。

詳細情報

Arlaの人権評価: [milk-market-and-malnutrition-human-rights-assessment-of-scaling-up-affordable-dairy-nutrition-in-bangladesh-final.pdf](#)

論文: 変化を搾り取る? 女性エンパワーメントへの道としての酪農開発を探る: [Milking Change Exploring Dairy Development as a Pathway to Female Empowerment.pdf](#)

ソリダリダッド: [Home - Solidaridad Network](#)

グリーン・デリー・パートナーシップ外部向け情報: [New forum launched for dairy sector | The Daily Star](#); [Dairy Value Chain Forum launched to advance green farming | The Business Standard](#); [Finance News: Latest Financial News, Finance News today in Bangladesh; New Age | Dairy Value Chain Forum launched](#)

ダニダ・グリーン・ビジネス・パートナーシップ: [Green Dairy Partnership - Creating a sustainable and productive dairy value chain model - Danida Business Partnerships](#)

ソリダリダッドのデジタルインクルージョンと女性酪農家エンパワーメント: [Solidaridad's USAID-funded WomenConnect Challenge Project Gains Momentum - Solidaridad Network](#); [Accelerating Pace in Solidaridad's WomenConnect Challenge Project - Solidaridad Network](#); [How women dairy farmers are taking charge with digital solutions - Solidaridad Network](#); [Digital Innovation Connects Women Dairy Farmers to Markets in Bangladesh - Solidaridad Network](#)

A woman in a vibrant, multi-colored sari (red, orange, blue, and grey) is walking outdoors. She is carrying a large metal bucket filled with white milk in her right hand and a small plastic bag in her left. She has a bindi on her forehead and is smiling slightly. The background shows a dirt path and some buildings, suggesting a rural setting.

「バケツいっぱいの生乳を得ると、私は感動で胸がいっぱいになります。自分の牛から搾ったものだから、とても幸せで誇らしい気持ちになるのです」

チリ

「ウーマン・イン・キャトル」イニシアチブ： チリの畜産セクターにおける女性のリーダー シップと持続可能性の促進

寄稿者

マリアナ・セスタウ (Mariana Cestau)、
ゾエティス社 (Zoetis)・チリ✉ elianna.rodriguezpargas@zoetis.com

「インクルージョンは単なる目標ではなく、
強く持続可能な畜産セクターへの道筋その
ものです」

全体像

チリでは、農業・林業・畜産セクターの労働力に占める女性の割合はわずか22%です。この状況を変えるため、ゾエティス社は「ウーマン・イン・キャトル」イニシアチブを立ち上げました。本イニシアチブは、畜産セクターにおける女性のリーダーシップを称え、無償トレーニングと貢献の社会的認知拡大を通して専門性を習得させる取り組みです。畜産従事者（農家、獣医師、研究者、広報担当者、技術者、および起業家など）なら男女問わず参加できる、技術力・リーダーシップ・支援ネットワークの強化を目的とするオンライン研修も実施しています。

本イニシアチブは、畜産バリューチェーン全体における、可視性、インクルージョン、意思決定への平等な参加を促進することで、SDG 5（ジェンダー平等を実現しよう）を直接支援しています。ウーマン・イン・キャトルは、家畜の健康、生産性、持続可能性において女性が果たす重要な役割を認識することで、より多様で公平かつ強靱な畜産セクターの構築に貢献します。これにより、将来の課題により強く備えることができます。

前提

本イニシアチブは、畜産セクターにおける女性の貴重な貢献を強調し、女性のリーダーシップを促進するとともに、この分野が直面する重要な課題である世代交代に取り組むことを目的としています。ウーマン・イン・キャトルは、インクルージョンとエンパワメントを促進することで、持続可能で多様性に富み、将来を見据えたチリの畜産セクターの構築を支援します。

進行中の取り組み

ウーマン・イン・キャトルは、畜産セクターにおけるジェンダー平等を推進するために、2025年3月にチリで立ち上げられました。

この取り組みは、乳牛バリューチェーン全体で男女とも参加できる無料のバーチャルトレーニングプログラムの開設から始まりました。リーダーシップ、技術的知識、コミュニケーションに焦点を当てた第1回のセッションは8月21日に提供されました。並行して、ゾエティス社は、業界で影響力のある女性・男性リーダーを称える公式表彰キャンペーンを開始しました。この取り組みは現在も継続中であり、2025年末まで追加トレーニングセッションと全国表彰イベントが計画されています。

成功の歴史

ウーマン・イン・キャトルは、実施したすべての国で効果が実証され、この重要な産業における女性の決定的な役割を浮き彫りにしました。スペインとメキシコでは、女性の可視性と生産的決定への積極的参加を促進し、インスピレーションと文化変革の原動力となりました。チリでは導入初期段階ながら、既に業界全体で幅広い参加を喚起しており、多様性を尊重する畜産バリューチェーンの基盤を築いています。研修、可視化、変革をもたらす女性・男性リーダーの社会的認知により、500名以上の専門家に恩恵をもたらすと期待されています。

本イニシアチブの意義

ウーマン・イン・キャトルから得られた重要な知見は、可視化と認知が文化変革の強力な触媒となることです。明確な目的意識、強力な協力関係、そして畜産セクター全体の女性たちの真の声が、成功の原動力となりました。課題の一つは、多様な農村環境で共感を呼ぶことでしたが、多様性を尊重する設計と参加しやすい形式により対応しました。無償のデジタル研修モデルは、拡張性と適応性を兼ね備えていることで、従来の地理的・制度的境界を超えた普及を可能にしました。

この経験は、適切なプラットフォームがあれば、女性のリーダーシップを強化称賛し、畜産バリューチェーン全体に持続的な影響をもたらす得ることを示しています。

今後の展開と機会

ウーマン・イン・キャトルの次段階では、研修内容の拡充、2025年末の全国表彰イベントの開催、畜産セクターの経験豊富な女性と若手専門家をつなぐメンターシップネットワークの構築を予定しています。ゾエティス社はまた、この取り組みを他のラテンアメリカ諸国で現地事情に合わせて展開する可能性も模索中です。チリでの好評を受け、生産者団体・大学・公的機関との連携による影響力拡大の道が開かれています。畜産セクターにおける継続的な推進力と長期的な文化変革を確保するためには、セクター横断的な連携強化と現場活動への統合が重要なステップとなります。

詳細情報

[ラジオ・ラ・メトロ インタビュー、マリアナ・セスタウ](#)

[メルクーリオ誌 農業レビュー](#)

[TKS プラス インタビュー、マリアナ・セスタウ](#)

←



インド

女性飼料協同組合による持続可能な酪農乳業の未来構築 – シャクティファーム飼料生産者協同組合の事例

寄稿者

ミーネシュ・シャール (Meenesh Shah)、

全国酪農開発委員会(National Dairy Development Board: NDDB)・インド

✉ aditya@nddb.coop

全体像

インドの酪農乳業の成功(世界最大の生乳生産国)は、生乳生産が重要な生計手段である何百万もの小規模農場に依存しています。しかし、飼料コストの高騰(生乳生産の約70%を占める)が持続可能性を脅かしています。濃厚飼料にはサプライチェーンがありますが、乾草や青刈り飼料は特定の月に不足することがよくあります。ウッタラーカンド州にあるシャクティファーム(Shakti farms) 飼料生産者協同組合のような飼料協同組合の設立は、その解決策となります。

女性のみで構成される当農家生産者組織(FPO)は、546名のメンバーを結集し、通年の飼料確保と農業投入資材サービスの拡充を実現しています。家畜管理の要である女性たちは、資源への平等なアクセスを得ることで、酪農収入の向上、食料安全保障の強化、家族の福祉向上が得られています。本組織は、インド政府が推進する1万FPOs計画の支援を受けて酪農乳業バリューチェーンを強化することで、SDG 5(女性のリーダーシップの強化)、資源アクセス拡大、技術活用促進の達成に貢献しています。

酪農乳業を持続可能な農業ビジネスへと転換するシャクティファームモデルは、地域主導の取り組みが飼料不足を克服し、農村部の女性を起業家としてエンパワーする方法を示しています。

前提

本インドニアチブの主目的は、青刈り飼料生産の強化、種子システムの改善、作物残渣の管理、飼料の商業化促進、技術・イノベーション・共同事業モデルによる農家(特に女性)のエンパワーメントによって、組織化した持続可能な飼料サプライチェーンを構築することです。

飼料に根ざし、女性と共に成長する – 強靱な酪農乳業の未来を築く

進行中の取り組み

2023年6月15日に開始した本インドニアチブは、政府および協力機関の支援のもと、546名の女性農家を連携させています。理事会の能力強化と理解促進から始まり、FPO(農家生産者組織)が青刈りトウモロコシの段階的調達戦略を採用し、サイレージ梱包機をレンタルし、50kgの梱包サイレージを生産することを可能にしました。これらは農家へ提供され、栄養豊富な飼料への通年のアクセスを確保するとともに、農場が自家栽培を行うよう奨励するため、種子やネピアグラス青刈り飼料を供給しています。FPOは農家から麦わらを調達し、生乳生産者やルドラプール家畜飼料工場(UCDF)へ高密度飼料ブロックを供給しています。また、第三者供給業者から乾草を調達するための信頼できるルートも確立しました。

成功の歴史

設立から2年足らずで、シャクティファームFPOは顕著な成果を挙げました：

- サイレージ5,316トン、飼料ブロック2,195トンの生産を達成
- 認証種子(トウモロコシ、バルシーム・クローパー、オート麦、ライグラス)2,600kgを供給
- 組合員に41,300本のネピアグラス青刈り飼料を配布
- ドローン散布などの近代的サービスを導入

通年での飼料供給により、乳牛群が維持され、乳量が増え、数百軒の農家の飼料不足が緩和されました。女性たちは自信と意思決定力、そして地域社会における存在感を得ました。女性のみで構成される取締役会と6,300万ルピーを超える売上高を誇るシャクティファームは、経済的影響力と社会的エンパワーメントの両方を体現しています。

本インドニアチブの意義

この取り組みの成功のポイントは、協同組合の組織的枠組みを通して女性を農業事業に正式に参画させた飼料バリューチェーンの制度化にあります。これにより、飼料不定期における飼料確保が安定化し、酪農乳業バリューチェーンが強化され、個々の農家が独自に飼料を確保する負担が軽減されています。得られた主要な教訓は、女性の集団的行動が農業変革を推進し得ることを示しており、一方で、技術導入が生産性を加速させ、統合的バリューチェーンアプローチが持続可能性を保証することも示しています。このモデルは、地域パートナーシップの構築、女性のリーダーシップ育成、市場対応型の製品多様化戦略に焦点を当てることで、同様の飼料課題を抱える地域に適用させることが可能です。



飼料供給を担う女性たち

© NDD8

今後の展開と機会

シャクティファームFP0は、酪農乳業バリューチェーンを強化した後、地域社会の他の農業ニーズやウッタルカンド州の他の酪農地域を対象に活動範囲を拡大しています。新たな地域で飼料モデルを再現し、広範な協同組合ネットワークと統合することで、より大きな影響力を目指す計画です。同FP0は、ミミズ堆肥やキノコ生産への多角化を進めることで、新たな収入源を創出するとともに持続可能な農業を推進しています。シャクティファームは、農家がレンタル可能な農業散布ドローンを導入することで、総合的な農業サービス提供者へと進化を遂げつつあります。こうした先駆的な取り組みは、女性の団結力がいかに強靱な女性主導型農業ビジネスの基盤を築き得るかを示しています。

酪農乳業における先駆的な女性たちへの賛辞

リディア・ラビノヴィッチ-ケンプナー (Lydia Rabinowitsch-Kempner) : 結核との闘いにおける医療の先駆者

寄稿者：タビサ・ルーズ・ヘム・キール (Tabitha Luise Hemme Kiel)、美術家、プロジェクト「印象的な女性たち」、ドイツ

女性が大学への進学を認められず、有給の学術職からも排除されていた時代に、リディア・ラビノヴィッチ-ケンプナー (1871-1935) は、命を救う科学的基盤を築きました。牛乳を介した結核感染に関する彼女の研究は、現代の食品安全の基盤となる衛生基準の確立につながりました。世界保健機関 (WHO) によると、2022年には1,060万人が結核に感染し、130万人が死亡しており、この問題は今なお緊急性を帯びています。

幼少期と教育

リディア・ラビノヴィッチは、1871年に現在のリトアニアにあたる地域 (当時はロシア帝国の一部) で生まれました。彼女は、深刻な制度的障壁に直面していたユダヤ人家庭で育ちました。当時、母国では女性が大学に進学することを許されていなかったため、学問を追求するためにスイスへ移りました。自然科学を学び、1894年に博士号を取得しました。

科学者としての歩み

ベルリンでは、ロベルト・コッホ研究所 (RKI) で唯一の女性かつ無給の助手となりました。機会は限られており、1896年にアメリカへ移住しました。そこでようやく相応の学術的評価を得ました。

米国フィラデルフィアでは、ペンシルベニア女子医科大学で教鞭を執り、研究を行いました。1898年には細菌学の正教授に任命されました。

彼女はドイツの科学界との繋がりを保ちつつ、ヴァルター・ケンプナー (Walter Kempner) と結婚しました。夫妻はベルリンに戻り、RKIでの研究を続けました。

1903年から16年間、ラビノヴィッチ-ケンプナーは、ベルリン・シャリテ病院病理研究所でも無報酬で働きました。これは、女性科学者が資格を持ちながらも制度的な役割から排除されていた現実を物語っています。

モービット牛乳戦争：公衆衛生の画期的な出来事

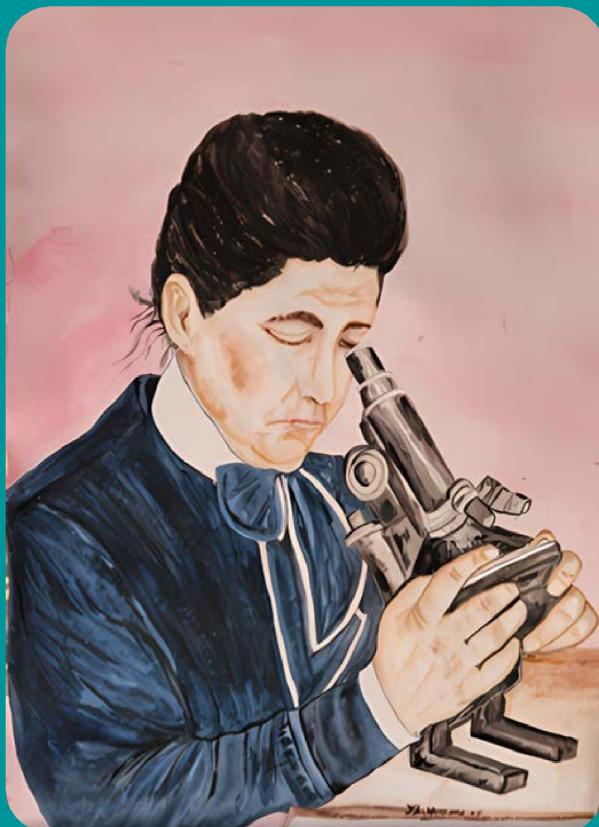
彼女のキャリアにおける決定的な一章であり、公衆衛生政策の画期的な出来事となったのが、いわゆる「モービット牛乳戦争 (Moabit Milk War)」です。1904年、ラビノヴィッチ-ケンプナーは、ベルリン市議会から、当時子供たちの健康を脅かす主要な病原体であった結核菌の生乳検査を委託されました。彼女の調査結果は、ロベルト・コッホ (Robert Koch) の先行研究と矛盾し、ボレ乳業会社が供給する未処理生乳から結核菌が検出されたことを明らかにしました。

そして、ボレ社が検査プロセスを操作していたことが発覚しました。ラビノヴィッチ-ケンプナーは不正を暴露して刑事告訴しました。その後に行われた裁判は、メディアで広く報じられ、科学的誠実さと経済的権力の衝突となりました。彼女は訴訟に勝利し、法的・科学的先例を確立しました。

この直接的な結果として、1910年に牛乳の安全検査が義務化されました。州当局が結核菌不検出と認定した牛乳のみが販売可能となり、この規制は今日でも牛乳の安全の基盤となっています。このスキャンダルは、生乳の低温殺菌処理が世界的に普及するきっかけとなりました。

評価とその後の人生

ラビノヴィッチ-ケンプナーは、その業績にもかかわらず、ドイツで有給の大学職を得ることはありませんでした。1912年、ヴィルヘルム2世皇帝は彼女に教授の称号を授与しました—ベルリンで初めてこの称号を得た女性でした—しかしそれは給与も大学教授職も伴わないものでした。



T.L.ヘムメ (T.L. Hemme) : 印象的な女性たち L.ラビノヴィッチ-ケンプナー、手作業で調合したアクリル絵具と手作り再生コットン紙 A2 (42 x 59.5 cm) を使用。

1920年、彼女は49歳でようやくモービット病院細菌学研究所所長に任命され、正式な給与を得ました。彼女は科学への貢献を続け、「結核ジャーナル」を創刊・編集し、細菌学と公衆衛生に関する国際的な論文を発表しました。1934年、死のわずか1年前、ラビノヴィッチ-ケンプナーは、ナチス政権下でユダヤ人という背景を理由に強制的に退職させられました。

結核と人獣共通感染症：依然として世界的な健康課題

ラビノヴィッチ-ケンプナーの遺産は今日でも深く関連しています。彼女が取り組んだ人獣共通感染症である結核は、特に食品安全基準が厳格に施行されていない国々の公衆衛生において、依然として極めて重要です。

WHOの「2023年世界結核報告書」によると、毎日約3万人が結核に感染し、3,500人以上が死亡しています。感染した牛からの生乳やエアロゾルを介した感染経路は、依然として脅威となっています。



研究者リディア・ラビノヴィッチ-ケンプナー（1918年）
(picture-alliance / dpa)

彼女の研究は、以下のような現代の予防対策の基礎を築きました：

- 牛乳乳製品の低温殺菌処理
- 牛群の結核定期検査
- 感染動物の食物連鎖からの排除
- 感染リスクに関する公衆教育

彼女の功績は今日まで響き渡っています — すべての低温殺菌牛乳パック、すべての食品安全規制、結核のないすべての牛群、そして予防可能な感染症から救われたすべての命に、彼女の足跡が刻まれています。

今も感染症との戦いが続く世界において、彼女の科学的な勇気は、道を照らす黄金の光であり続けています。



1905年頃の牛乳配達・輸送風景

米国

ウーマン・イン・ブルー、デラバル社における女性人材のエンパワーメント

寄稿者

キム・スミス (Kim Smith)、モニカ・モンタルバーノ (Monica Montalbano)、メーガン・パティ (Meghan Patti)、
カロライナ・マテウス (Carolina Mateus)、デラバル社 (DeLaval Inc.)・米国

✉ carolina.mateus@delaval.com

全体像

「ウーマン・イン・ブルー (Women in Blue, WiB)」は、デラバル社の女性従業員に発言の場と支援ネットワークを提供するものです。組織内の女性が意義ある課題を提起し、ニーズに合致した解決策を生み出し、企業文化に即した成長と教育の機会を推進できるように支援することで、SDG 5に貢献します。デラバル社の北米組織内で誕生した WiB は、職場の問題に対する認識を高め、経営陣に方針に関するフィードバックを提供し、お客様にとってのコミュニティの模範としての役割を果たしています。

前提

WiB の目標は、デラバル社において優れた女性人材を惹きつけ、育成し、定着させることです。これを実現する方法の一つは、深い共同体意識を持つ安全な空間を創出し、従業員がニーズを特定し、キャリアと個人の目標をより良く支援するための解決策を提案できるようにすることです。

Women in Blue (WiB) は北米における従業員リソースグループ (ERG) であり、デラバルが酪農乳業セクターのリーディングカンパニーとして発展し、優れた女性人材を惹きつけ、育成し、定着させることに注力しています。

進行中の取り組み

WiB は、2015年にデラバル社初の従業員リソースグループ (Employee Resource Group: ERG) として設立されました。私たちは、リーダーシップのビジョンとコミットメントが成功の鍵であることをすぐに学びました。リーダーと共同リーダーからなる2年間のローテーション制リーダーシップシステムを構築しました。共同リーダーは2年目にメインリーダーとなり、新たな共同リーダーを迎え入れます。

優れた女性人材を惹きつけ、育成し、定着させるという私たちの目標は、教育の機会を提供し、従業員が自らのニーズを把握し、解決策を提案するワーキンググループを立ち上げ、上層部からの支援を得ながら、互いのキャリアや人生の目標を後押しできる安全な場をつくることで実現しています。



図1. ウーマン・イン・ブルーが展開した活動のタイムライン

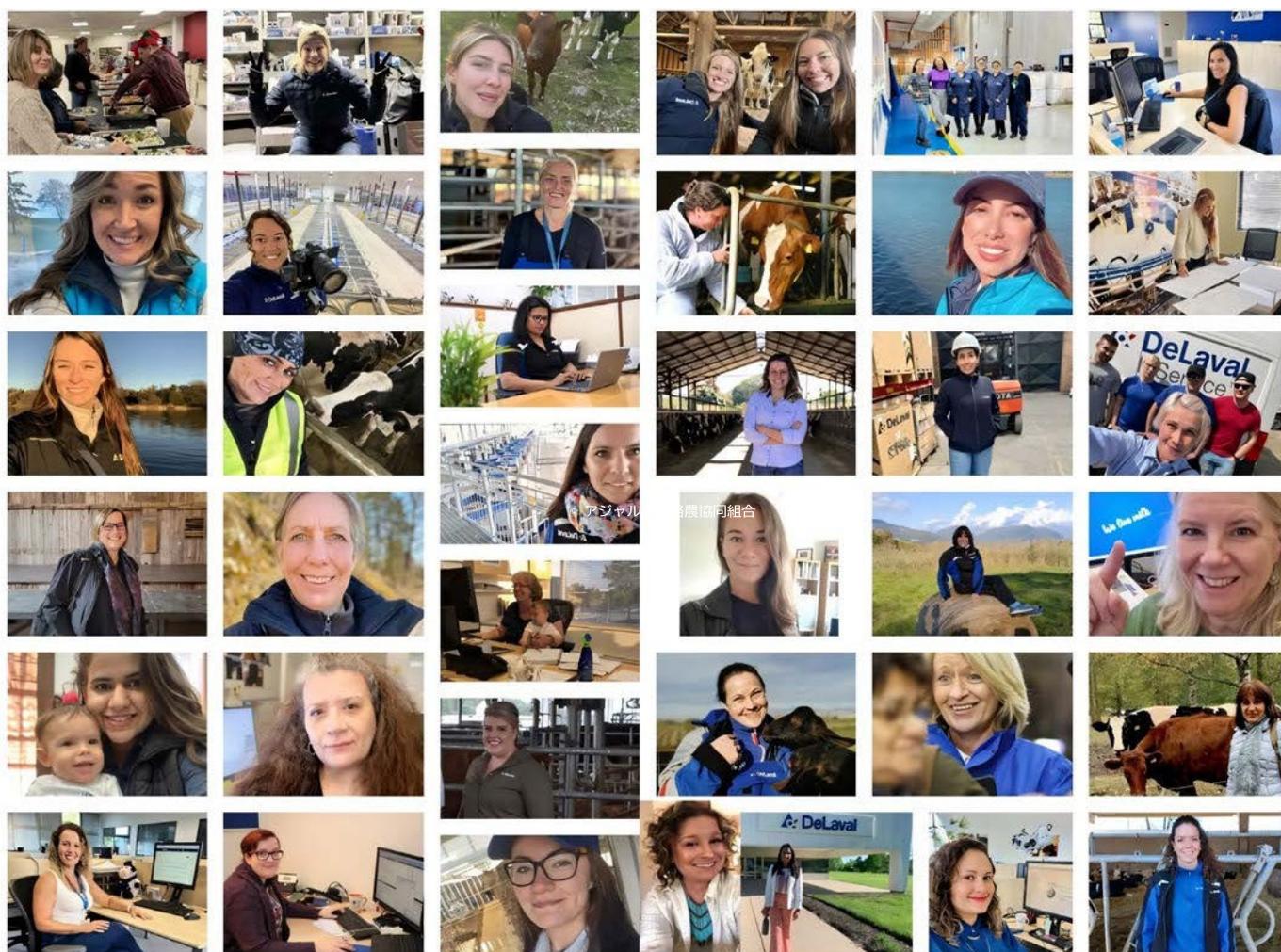


図2. 2025年の国際女性デーを祝って、女性社員たちが、仕事について刺激を受けたことや、酪農乳業界に就職したきっかけについて、写真や感想を共有しました。

成功の歴史

2015年の設立以来、WiBは、ウェビナーからワークショップ、バーチャル農場見学、コーチングプログラム、ブッククラブ、ディスカッションフォーラム（図1）に至るまで、従業員に多様な教育機会を提供してきました。これらの場を通して、困難な状況下でいかに管理し、成長していくかを学ぶことができました。また、ERGとして育児休暇制度の改善を働きかけ、成功させました。この新制度は2019年に初めて導入され、2024年にさらなる改善が加えられました。

本イニシアチブの意義

WiBのメンバーは、トップダウンの取り組みではない草の根組織であることで、グループの使命に強くコミットしています。ローテーション制のリーダーシップモデルは継続性を確保しつつ、リーダーシップの機会を提供し、新たなアイデアを促進します。結成初期に下したもう一つの賢明な選択は、多様性を強く尊重するERGとなることでした。職種や勤務地を問わず、全ての女性従業員に門戸を開いています。組織内での認知度が高まるにつれ、ERGの透明性を高める必要性も認識しました。これにより、多様性尊重を拡大し、トレーニングや議論を男性同僚にも開放するに至りました。

今後の展開と機会

当社は現在、会社の文化の成長を主目的として、性別を問わずに他の従業員との重要な対話を促進する取り組みを進めています。

また、この取り組みを拡大するため、ラテンアメリカの従業員とも連携しています。過去には、スウェーデンのデラル本社で設立された女性主導のERG「DAWN (Diversity at Work Network)」とも協力してきました。

組織内のコミュニティリソースの利点を促進するため、WiBや当社のようなERGの存在とメリットについて、認知を広めることを目指しています。

詳細情報

デラル社は、2025年国際女性デーを記念し、優れた女性人材を称えています（図2）。彼女たちのストーリーはこちらからご覧ください：

<https://corporate.delaval.com/2025/03/international-womens-day-2025/>

<https://corporate.delaval.com/2022/03/gender-equality-today-for-a-sustainable-tomorrow/>

<https://www.dairyherd.com/news/business/delavals-women-blue-drives-change-and-adds-inclusiveness-dairy-workplace>

<https://cowsmo.com/news/delaval-closes-the-gap-on-gender-parity/>

メキシコ

優良農業プラクティス：酪農乳業における女性の力を解き放つプロジェクト

寄稿者

ネリー・ペニャ・ハース (Nelly Peña Haaz)、
メキシコ獣医師協会連合会 (Federation of Colleges and
Veterinarian Associations of Mexico, C.A.)・メキシコ

✉ consultoriasplit@gmail.com

全体像

このイニシアチブは、酪農乳業バリューチェーン全体における女性のリーダーシップを通して SDG 5 を推進すると同時に、子どもにとって基本的な食品である安全な牛乳を確保することで公衆衛生を守るものです。

女性は、搾乳、子牛の飼育、獣医療、生産のあらゆる場面で貢献しています。メキシコでは、その影響は顕著で、初の女性大統領を輩出し、大規模な国際的酪農場の女性CEO、獣医組織や獣医学部の多数の女性リーダー、国立獣医学部で74%を占める女子学生などに表れています。

優良農業プラクティス (Good Agricultural Practices: GAP) プロジェクトは、この進展を浮き彫りにしています：メキシコ北部の主要酪農地帯「ラ・ラグーナ (La Laguna)」地域にある87の酪農場で活動する男女各5名からなる平等なチームを、国内の女性専門家が率いています。この協働は、ジェンダーのインクルージョンが酪農生産を強化して食品安全を保証することを証明し、安全で持続可能な生乳供給に女性の参加が不可欠であることを示しています。

前提

目標は、牛乳の安全性と若手獣医師の育成でした。ラテンアメリカを代表する当企業において、酪農家は女性主導で87農場の認証を取得するという課題を受け入れました。

全農場において、飼料・水質管理、薬剤管理、設備衛生、家畜福祉の確保が実施され、消費者の利益に資する取り組みが行われました。

進行中の取り組み

プロジェクトは2022年の診断評価から始まりました。



メキシコ生乳生産者協会イベントに参加する農家たち、2025年

2023年には、アントニオ・ナロ大学 (Antonio Narro University) を卒業したばかりの若手獣医師10名 (男性5名、女性5名) を採用・教育し、87の酪農場での認証取得支援に従事させました。GAP導入は女性主導で行われ、ディレクターと監査役も女性が務めました。2024年12月までに全87農場が認証を取得し、若手獣医師全員が雇用されました。

現在は、30の小規模家族経営農場での活動が続いています。

成功の歴史

メキシコ国内の生乳生産の22%を占めるララ・グループは、GAPプログラムにより、供給量の90%について認証を取得しました。同社はこの数値を100%に引き上げることを目指しています。これにより、安全な製品、生産性の向上、家畜疾病リスクの低減が実現し、消費者に健康で安全な製品を届けられるようになります。なお、同社の生乳の8%は女性が主導する企業から調達しています。

本イニシアチブの意義

メキシコの社会は、女性のリーダーシップをますます受け入れています。このプロジェクトには問題解決のための科学的知識、技術的専門性、分析力が求められましたが、何よりも女性が体現する献身的な姿勢が不可欠でした。このような成功事例を通して、女性の能力に対する認識が高まっています。

認証済みの農場を倍増させること (保健当局が国家的マイルストーンと認識) で、私たちは、女性のリーダーシップ能力を証明しました。

最近では、ラテンアメリカ最大の酪農場を所有する別の企業が、国内専門家の指導のもとで認証を取得しました。

今後の展開と機会

2022年、我々は獣医師連盟に本プロジェクトを提案しましたが、若年層の採用に対する懐疑的な見解に直面しました。彼らは、メキシコ政府の助成金支援を受けて1年間懸命に活動し、印象的な成果を上げました。現在、この成果は、地域および国内の各種会議でモデル事例として紹介されています。

食品安全は、公衆衛生、ビジネス、輸出拡大にとって依然として極めて重要です。

役割、賃金、労働条件におけるジェンダー平等はまだ少し遠い道りであるものの、これらの成果は女性の能力を浮き彫りにしています。私たちは現在、最小規模の農場への助言を行っています。若いメキシコ人女性たちが主導するこの助言活動が国内の他の地域にも広がることを願っています。

参考文献:

https://www.gob.mx/cms/uploads/attachment/file/940824/Panorama_de_la_lecher_a_en_Mexico_2023.pdf

https://www.fmvz.unam.mx/fmvz/direccion/informes/2023/FMVZ_Informe-2023.pdf

「道の先導：国家的な牛乳の安全のための女性主導イニシアチブ」



GAPに関する助言を行う若手獣医師



GAPプロジェクトクロージング会議、2024年12月



ラ・ラゲーナ牛専門獣医師協会、2024年3月8日

アイルランド

デーリー・ウーマン・アイルランド：アイルランドの酪農乳業セクターの女性をつなぎ、エンパワーメントを行う活気ある組織

寄稿者

メアリー・キンストン (Mary Kinston)、シアラ・リンチ (Ciara Lynch)、アイルベ・ティンドール (Ailbhe Tyndall)、ケイティ・グリーソン (Katie Gleeson)、メイブ・キーン (Maeve Keane)、フィオナ・オドネル (Fiona O' Donnell)、アイン・オCONNELL (Aine O' Connell)、ディアドラ・ハインズ (Deirdre Hynes)、ローラ・ハノン (Laura Hannon)、メラ・ブリスコ (Mella Briscoe)、ミシェル・マクグラス (Michelle McGrath)、ロイシン・カミンズ (Roisin Cummins) - デーリー・ウーマン・アイルランド (Dairy Women Ireland) ・アイルランド

✉ dairywomenireland@gmail.com

全体像

「デーリー・ウーマン・アイルランド (Dairy Women Ireland)」は、アイルランド酪農乳業セクターの女性をエンパワーし、結びつける草の根イニシアチブで、農場での意思決定やリーダーシップにおける女性の歴史的な過小評価に対処しています。知識共有、相互支援、スキル開発のための安全で実践的な場を創出することで、家族経営農場や農業ビジネスにおける平等なパートナーとして女性の役割を強化しています。これにより、女性の参加、リーダーシップ、経済的エンパワーメントを促進し、SDG 5 (ジェンダー平等を実現しよう) を直接支援しています。農業株主のうち女性が占める割合はわずか13%という分野です。この取り組みは、個人のエンパワーメントを超え、酪農乳業のバリューチェーン全体 (農家家族やアドバイザーから乳業者、協同組合、金融機関に至るまで) の強靱性と持続可能性を高めています。デーリー・ウーマン・アイルランドは、女性の声と能力を増幅させることで、インクルージョンを推進するだけでなく、農村コミュニティと広範な農業食品経済に利益をもたらす、より革新的で均衡の取れた未来志向の酪農乳業システムを育んでいます。

前提

デーリー・ウーマン・アイルランドは、教育、ピアネットワーク、リーダーシップ機会の提供によって酪農乳業セクターの女性をエンパワーし、結びつけ、支援するために存在しています。その目標は、女性が酪農乳業バリューチェーン全体で平等な意思決定者および貢献者として認識されることを確保し、農場家族とより広範な産業を強化することです。

進行中の取り組み

デーリー・ウーマン・アイルランドは、酪農乳業界全体から集まった有志の運営委員会によって2021年に設立されました。最初のステップは全国ネットワークの構築であり、その後すぐに地域集会在開催され、ティペラリー州サーレス (Thurles, Co. Tipperary)



アリス・ドイルが、アイルランド酪農女性協会の地域グループメンバーらに講演している様子

では160名以上が参加して初の全国会議が開催されました。その後、FBD保険 (FBD Insurance)、FDCグループ (FDC Group)、ケリー・デーリー・アイルランド (Kerry Dairy Ireland)、ティーガスク (Teagasc) などの組織とのパートナーシップにより、農場イベント、キッチンテーブルディスカッション、ウェビナー、スキルワークショップを実施しました。現在も会員数が増えており、年次大会開催、地域・全国イベントのプログラムの拡大、強固で持続可能な実践コミュニティの構築をしています。

成功の歴史

2021年の発足以来、デーリー・ウーマン・アイルランドは全国規模の会員ネットワークを構築してきました。会員向け地域集會や家族的な交流会が信頼できる学びの場を提供し、ウェビナーやワークショップでは財務・

持続可能性・農場経営に関する知識へのアクセスを拡大しました。会員からは自信の向上、家族経営農場内での意思決定力強化、貴重な専門的ネットワーク構築が報告されています。本イニシアチブは、酪農乳業セクターにおける女性の声の拡大により、農場家族・アドバイザー・業界パートナーに直接的な利益をもたらしました。酪農乳業セクターは、多様性を尊重する強靱な酪農乳業セクターを創出している才能豊かで意欲的な女性酪農家の集団にアクセスできることで恩恵を受けています。

本イニシアチブの意義

私たちは、ニュージーランドの「酪農乳業女性ネットワーク」に触発され、伝統的に男性中心の業界に変革をもたらすために独自の会員ネットワークを創設しました。成功の要因は、女性が経験を共有し、スキルを習得し、自信を育むことのできる、安全で真摯な場を創出したことです。



デーリー・ウーマン・アイルランド運営委員会、2024年

© Tom Ryan



アイルランド全国酪農乳業賞において、年間最優秀酪農乳業討論支援グループ賞を受賞したデーリー・ウーマン・アイルランドのメンバーたち、2025年

地理的孤立や時間的制約といった課題は、学校時間中の農場キッチンでの集まりや夜間ウェビナーなどの柔軟な形式で対応しました。重要な教訓は、女性が見られ、声を聞いてもらえ、支えられていると感じる時にエンパワーメントが育まれることです。この草の根モデルは汎用性が高く、他の農業セクターや農村コミュニティへの拡大展開が可能であり、インクルージョンとバリューチェーンを強化することができます。

今後の展開と機会

デーリー・ウーマン・アイルランドは、地域集会・農場ワークショップ・年次会議の拡充をしながら全国展開を継続していくでしょう。会員基盤の拡大と業界パートナーとの連携強化により、酪農乳業セクターの女性たちのスキル・リーダーシップ・認知度向上を図ります。ウェビナーやストーリーテリングキャンペーンなどのデジタル施策で参加しやすさと多様性受容を拡大します。新たな機会としては、乳業者・協同組合・金融機関との連携を一層深め、酪農乳業バリューチェーン全体にジェンダー平等を根付かせていくことが挙げられます。

「ボランティア運営委員会が主導するデーリー・ウーマン・アイルランドは、教育と支援を通して酪農乳業セクターの女性をつなぎ、エンパワーメントを図っています。このネットワークは、アイルランドの酪農場で生活する女性や働く女性を支援し、仲間とのつながり、自信、スキル習得を促進します。」

このイニシアチブは、活動の拡大と多様化を通して女性がアイルランドの酪農乳業の未来を形作る上で強い役割を果たすことを目指しています。

詳細情報

Dairy Women Ireland ウェブサイト - <https://dairywome-nireland.ie/>

Dairy Women Ireland YouTube - <https://www.youtube.com/@dairywomenireland>

Dairy Women Ireland: 「驚くべきことが起こり得る」
<https://www.farmersjournal.ie/news/news/dairy-women-ireland-incredible-things-can-hap-pen-737340>

協同組合が資金提携で酪農に従事する女性を支援
<https://www.agriland.ie/farming-news/co-ops-back-women-in-dairy-with-funding-partnership>

農業の未来をリードする女性たち：FDCグループがDairy Women Irelandを後援
<https://www.fdc.ie/women-leading-the-future-of-farming-fdc-group-sponsors-dairy-women-ireland/>

Dairy Women Ireland が初の会議を開催し、業界変革を推進
<https://www.agriland.ie/farming-news/dairy-women-ireland-holds-first-meeting-to-drive-change-in-the-industry/>

Dairy Women Ireland が初の会議を開催
<https://www.irishexaminer.com/farming/arid-40990844.html>

酪農乳業セクターの女性向け新団体発足
<https://www.farmersjournal.ie/dairy/news/new-group-set-Cha>

ジンバブエ

女性による、より良い基準と持続可能性に向けた酪農乳業のモ～進

寄稿者

パイドアモヨ・チャドカ (Paidamoyo Chadoka)、ジンバブエ酪農協会 (Zimbabwe Association of Dairy Farmers: ZADF)・ジンバブエ

✉ ceo@zadf.co.zw

全体像

本イニシアチブは、酪農乳業セクターの女性たちが持続可能な手法を導入する能力を強化することで、彼女たちをエンパワーし、最終的に国内の生乳生産量の増加を促進します。貧困削減と経済的エンパワーメントを直接支援するものであり、SDG 5（ジェンダー平等を実現しよう）とも整合しています。

女性の生計向上により、経済的自立を促進し、社会的地位を高めます。また、女性を酪農乳業のバリューチェーンの各所に組み込み、主要ステークホルダーとの連携を促進します。

女性酪農家は、普及指導員、飼料供給業者、獣医サービス、持続可能な農業機器提供者と連携し、運営コスト削減と質の高い生産資材へのアクセスを改善しています。さらに地元乳業者、流通業者、小売業者、NGOとの連携を促進し、女性主導の牛乳乳製品市場へのアクセス改善をするとともに継続的支援を提供しています。

本イニシアチブは、女性が酪農乳業で成功できる支援的なエコシステムを構築しており、持続可能な農業の発展と多様性を土台とする経済成長に貢献しています。

前提

参加する女性酪農家の生乳生産量を少なくとも50%増加させることを目標としており、生産資源の平等な管理、公正な資源配分、男女間の平等な参加を目指しています。確立された女性酪農家のデーリーネットワークの活用と、女性の参画を促すための積極的な働きかけを通して平等を実現します。

「女性が持続可能な方法を導入し、生乳生産量を高められるように支援する」

進行中の取り組み

ZADF（図1）は、生産に関わる課題について女性が議論するためのソーシャルネットワークプラットフォームを提供しています。このことは、資材供給業者や市場関係者などの酪農乳業バリューチェーン関係者との市場連携を構築することで、女性酪農家の支援となっています。ZADFは、酪農従事者にとって有利な事業環境を確保するために規制機関・政府・民間セクターと連携することで、酪農に携わる女性に貢献しています。またZADFは、TRANZDVC-Eプロジェクト（2021-2024年）などのプロジェクトを開発機関に代わって実施しており、酪農乳業セクターの活性化を図っています。現在実施中の「Imovedプロジェクト（2024-2028）」は、スウェーデン政府の資金による事業で、酪農乳業を含む選ばれた農業バリューチェーンへの投資による女性支援を目的としています。

成功の歴史

女性の酪農生産への参加率は、2017年の23%から36%に上昇しました。女性1人当たりの生乳量は2021年の平均7リットル/頭/日から2024年には10リットル/頭/日に増加しました。女性の資源へのアクセスは改善され、TRANZDVCプロジェクトとImovedプロジェクトからの恩恵を男女平等に受けています。女性は、生産資源へのアクセスにおいても平等に恩恵を受けています。

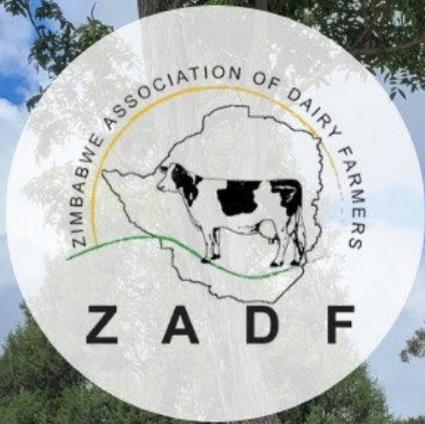
ZADF内の指導的立場にある女性の割合が増加しており、現在、理事会の30%を女性が占めています。2028年までに50%まで増やすことを目標としています。年間最優秀酪農家コンテストにおいても、女性と若者の参加が優先されています。

本イニシアチブの意義

草の根レベルでの協議と関与は、ZADFプロジェクトの成功に不可欠でした。多数のステークホルダーにアプローチする方法は強力なビジネス連携の構築に有効でした。EUを通じたマッチング・グラント・ファシリティは、酪農への融資において有用なツールであることが実証されました。これは酪農家の資金調達アクセスを改善すると同時に、酪農乳業セクターへのコミットメントをはかるものです。飼料、酪農生産、マーケティング、金融アクセスなどに関する複数の研修セッション、実演、プロジェクトが促進した交流訪問により、農家は酪農乳業ビジネスにおける新しい重要な知識、姿勢、実践を習得することができました。

今後の展開と機会

ZADFは、能力育成プログラム（図2）による酪農乳業への女性の参画促進、ネットワーキング機会の創出（図3）、女性の資源への平等なアクセスを確保するための政策変更の提唱を積極的に継続します。飼料コストの軽減のため、協会はパートナーと連携し、農場内飼料・牧草生産に関する支援（研修、投入資材、必要機器の提供）を実施します。また、農家の所得向上のために、付加価値向上支援の強化にも取り組みます。飼料配合段階および乳業加工段階における付加価値向上を支援します。



MOO-VING DAIRY TOWARDS BETTER STANDARDS

+263 242 251848
 admin@zadf.co.zw
 46 Lawson Ave,
 Milton Park,
 Harare,
 Zimbabwe

詳細情報

<https://www.facebook.com/ZimbabweAssociationOfDairyFarmers/videos/women-month-celebrations-on-the-6th-of-march-2025-zadf-joined-the-nation-in-cele/4042006796028260/>

<https://www.youtube.com/watch?v=mGzK0mN-9Wtk>

<https://www.facebook.com/newsdayzim/videos/sponsoredlets-take-a-look-at-mrs-es-ther-marwa-a-successful-dairy-farmer-from-lan/1533775643999224/>

<https://www.youtube.com/watch?v=Hu4VhHI2-1I>

<https://www.youtube.com/watch?v=3R3gDTCEvuQ>

<https://www.heraldonline.co.zw/more-matabele-land-women-venture-into-dairy-farming/>

<https://www.weeffect.org/stories/charurwa-wom-en-use-horticulture-profits-to-enter-dairy-sector/>

<https://etimes.co.zw/how-zimbabwes-women-are-transforming-the-dairy-sector/>



パキスタン、ナイジェリア、インドネシア

女性畜産労働者：酪農起業による農村女性のエンパワーメント

寄稿者

イロナ・マック (Yiona Mak)、フリースランドカンピーナ社
(FrieslandCampina)・パキスタン、ナイジェリア、インドネシア

✉ yiona.mak@frieslandcampina.com

全体像

2006年に開始されたフリースランドカンピーナ社の女性エンパワーメントプログラムは、パキスタン、ナイジェリア、インドネシアの農村部の女性を、酪農乳業バリューチェーンの積極的な参加者へと変革しています。家畜の主な世話役であるにもかかわらず、従来は正式な酪農システムから排除されてきた女性たちが、現在では「女性家畜労働者 (Lady Livestock Workers: LLWs)」や、生乳収集事業者、酪農普及員として訓練を受けています。この取り組みは、女性のためのリーダーシップと収入源の機会を創出し、文化的規範に挑戦し、女性をサプライチェーンに組み込むことで、SDG 5 (ジェンダー平等を実現しよう) を直接支援しています。また、貧困削減、健康改善や教育成果の向上、ディーセント・ワークの促進をすることで、SDGs の目標1、3、8にも貢献しています。

本プログラムの構造的アプローチは、女性をサービス、市場、技術と結びつけ、多様性を備える農村を開発するための汎用モデルとなっています。

前提

農村部の女性を、研修、起業支援、リーダーシップ機会の提供をすることで公式な酪農乳業セクターに組み込み、その経済的自立と社会的地位を高めることでエンパワーメントを図ります。

進行中の取り組み

2006年にパキスタンで開始し、後にナイジェリアとインドネシアに拡大展開した本プログラムは、500人以上の女性を認定家畜普及事業者として育成することから始まりました。

その後、35,000人の女性農家にアニマルケアを、300人の女性に生乳収集業者としての訓練を提供するなど規模を拡大しました。また、女性主導の酪農チームや支援キャンプがピアサポートを提供しました。タブレットやスマートフォンなどのICTツールを導入することでサービス提供を強化するとともに、女性と獣医専門家が連携できるようにしました。国連開発計画 (UNDP)、米国国際開発庁 (USAID)、現地機関との連携により、技術的・財政的持続可能性の確保もしました。プログラムは現在も継続・拡大しています。

成功の歴史

800人以上の女性が家畜サービス提供者として認定され、現在は90~300米ドルの月収を得ています。家畜管理の研修を受けた3万5,000人の女性酪農家は、1頭あたり1~2リットルの生産性向上を達成し、収入が月あたり約60米ドル増えました。



女性起業家の育成

既知のビジネス企業との連携構築



300人の女性が生乳収集事業者に転身し、酪農家の直接収入源となりました。この取り組みは、世帯の福祉、子どもの栄養状態、女性の意思決定権の向上に寄与しました。また、コミュニティと女性主導のチームの活動により、文化的障壁への対応が行われました。

本イニシアチブの意義

成功の要因は、女性の既存役割を基盤とし、地域に即した研修を提供し、コミュニティ支援を育んだことにあります。文化的抵抗や移動制限といった課題は、信頼構築と女性主導のアウトリーチ活動で対応されました。ICT整備により、サービス提供と接続性が向上しました。このモデルは多様な状況に適用可能で、パートナーシップによる拡大展開が可能です。この取り組みは、ジェンダーが平等なサプライチェーンが農村経済を変革し得ることを実証しています。

「過去のプロジェクトは、全て、酪農家と彼らの業務効率・生活の質向上に焦点を当てていましたが、サプライチェーンの不可欠な要素である女性酪農家に完全に特化したものは一つもありませんでした」

- ラフィク博士 (Dr Rafiq)、
生乳調達・酪農開発地域マネージャー

今後の展開と機会

今後の計画には、プログラムの地域拡大、ICT整備の深化、地方政府や大学との連携強化などがあります。このモデルは他の農業セクターに展開できる可能性もあります。新たな機会としては、デジタル家畜健康プラットフォームや、女性起業家向けのマイクロファイナンスなどが挙げられます。本プログラムは、フリースランドカンピナ社のグローバル事業全体において、ジェンダー平等な実践を制度化することを目指しています。

詳細情報

[Empowering women to build a better tomorrow - FrieslandCampina Engro Pakistan Limited - FrieslandCampina](#)



ネネン・ロシダ (Neneng Rosidah)、インドネシア・フリージアン酪農開発担当

© FrieslandCampina

中国

女性たちが先導する：ジュンレバオが科学的・技術的・エンパワーメント型イノベーションで酪農乳業チェーンを再構築

寄稿者

ルー・チュン (Lu Chun)、ジュンレバオ・デーリーグループ
(Junlebao Dairy Group Co., Ltd.)・中国

✉ luchun@jlbrv.com

全体像

設立以来、ジュンレバオ社 (Junlebao Dairy Group Co., Ltd.) は、女性従業員の権利保護を最優先課題とし、革新的な支援制度を継続的に導入しました。公平な雇用機会、競争力のある報酬、労働環境の改善を通して平等な職場環境を構築しています。これには、家族農場モデルや先進技術の応用による性別障壁の排除も含まれています。また、製品開発において女性の視点を重視し、健康管理・母子栄養・消化器健康に特化した製品を展開してあらゆる年齢層・職業の女性に向けたカスタマイズソリューションを提供しています。

前提

公平性と尊重の価値観に基づき、テクノロジーを活用して組織内の女性の地位向上を図り、ジェンダーの障壁を打破してきました。また、女性の視点に立った研究開発を推進し、製品革新を通して多様なニーズに的確に答えています。

進行中の取り組み

1995年の創業以来、ジュンレバオ社は平等でジェンダー平等な企業文化の構築に努め、女性従業員の保護と能力向上を図るとともに、女性向け製品群の見直しを進めてきました：

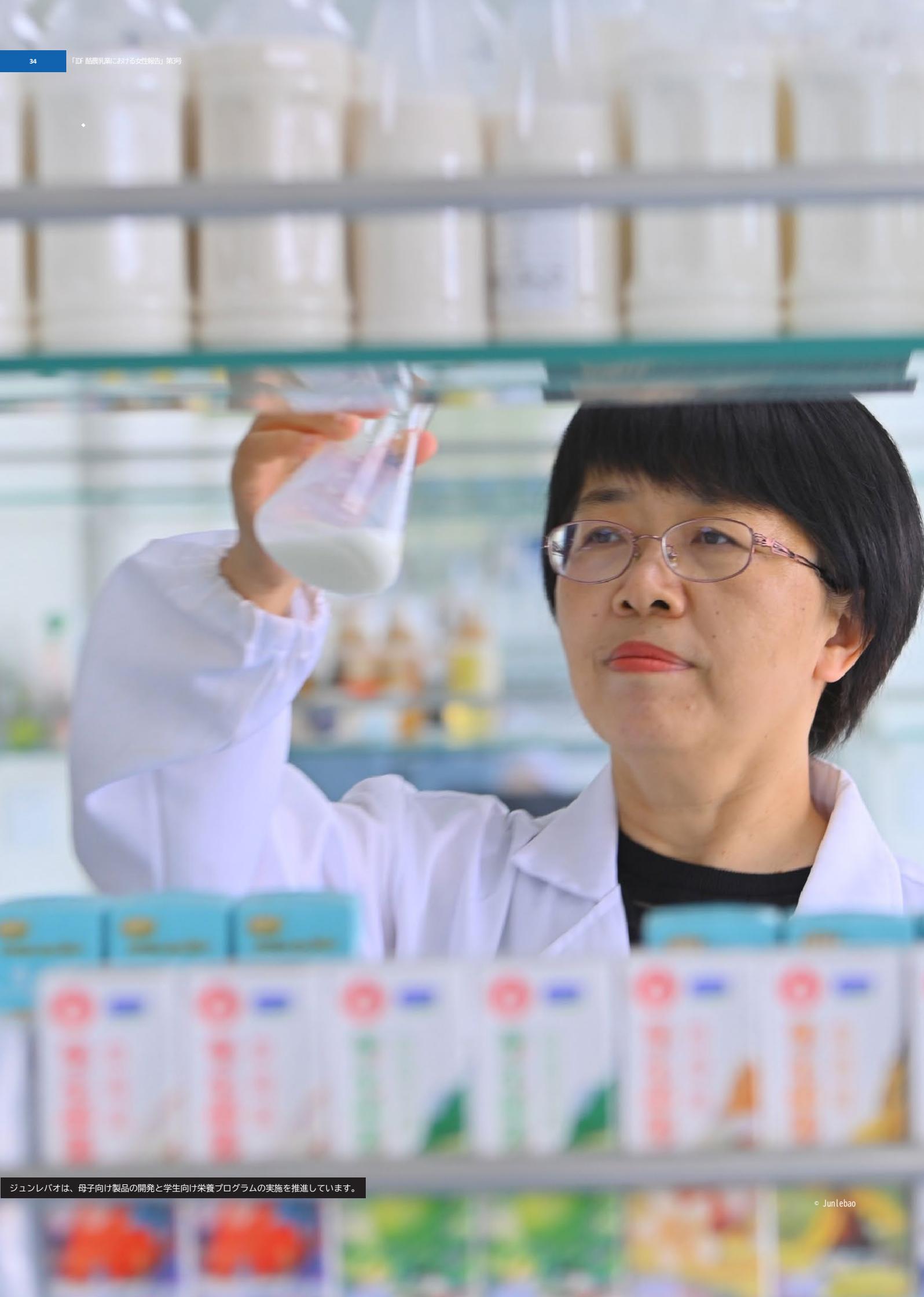
- 2014年～2016年 - 母乳研究を開始し、母子の栄養ニーズに特化した製品開発を実施
- 2021年 - 女性従業員向け健康教育活動を展開
- 2024年 - 女子生徒の乳製品摂取促進を目的とした「学校牛乳フードエデュケーションキャンペーン」を開始 (図1)
- 2025年 - 産休支援制度の改善を目的とした産休補助金プログラムを開始



成功の歴史

ジュンレバオ社は女性従業員向け多次元支援体制を確立してきました：

- 制度管理：従業員代表会議により女性の意思決定参加を確保し、CEO直通ラインで提案を収集
- ライフスタイルケア：授乳室を含むインフラが、心身の健康をサポート
- キャリア開発：オンラインプラットフォームとトレーニングプログラムによる専門スキルを強化 (図2)。
- 製品開発：女性のライフサイクル全体にわたる健康ニーズ (例：腸の健康、糖分コントロール、高カルシウム) を対象とした製品が開発されています。



ジュンレバオは、母子向け製品の開発と学生向け栄養プログラムの実施を推進しています。



「女性への敬意は、
ジュンレバオの業務実践に貫かれているだけでなく、ターゲットを特定した革新的な製品にも反映されています。」

医療機関や公益団体と連携し、妊娠・出産期の健康管理サービスを提供する予定です。

詳細情報

<https://www.junlebaoruye.com/>

その他の計画としては、組織内の女性従業員の能力開発に関するデータを分析し、平等化の仕組みを通して業界の持続可能な発展を促進することが挙げられます。

本イニシアチブの意義

ジュンレバオ社は、女性のエンパワーメントと平等なキャリア機会を強く推進し、母子用製品と学生栄養プログラムの革新を促進することで、女子の健全な成長を支援しています（図3）。学乳によるキャンパス公益事業を支援することで、女子教育の確保に貢献し、女子と女性に対する社会的責任を果たすという目標の達成を支援しています。組織内の定期的なフィードバックメカニズムは、女性の成長の可能性を最大限に引き出します。

今後の展開と機会

近い将来、ジュンレバオ社は女兒の牛乳乳製品に関する健康ニーズの詳細調査を実施し、科学的栄養計画をカスタマイズする予定です。これは、女性リーダーシップのエンパワーメントプロジェクトを推進し、普及のチャンネルを広げることに役立ちます（図4）。また、





酪農家が牛の世話をしている。

インド

エンパワーメントとの出会いーインドにおける女性主導の酪農による変革の物語

寄稿者

ミーネシュ・シャール (Meenesh Shah)、全国酪農開発委員会 (National Dairy Development Board: NDDB)

酪農サービス (Dairy Services: NDS) ・インド

✉ aditya@nddb.coop

全体像

NDS (酪農サービス) は、インドの農村部における既存の社会構造に挑んでいます。インドの酪農乳業セクターの基盤であるにもかかわらず、女性が経済活動や意思決定から排除されることは少なくありません。生産者所有企業の一形態である生乳生産者組織 (Milk Producer Organisations: MPOs) の設立は、SDG 5 (ジェンダー平等実現しよう) を支援し、女性が主流経済に参加する力を与え、透明性のある持続可能な直接収入を提供します。女性たちは、無償の貢献者から、認められた生産者・意思決定者へと変容します。これにより女性の自信が生まれ、ジェンダーの力学が再構築され、自己価値の実現が促進されます。私たちは、女性に、ガバナンス・データ分析・取締役会レベルでの意思決定のためのデジタルツール活用の訓練をさせています。私たちは、酪農乳業バリューチェーン全体において女性が農村変革の積極的な推進役となることを保証します。これまでにインド全土で23のMPOsの法人化を支援しています：

- 16団体は女性酪農家による完全所有
- 18団体は女性会長が率いる

…インドの最も遠隔地に住む100万人以上の女性に力を与えている。

前提

NDSの存在意義は、小規模・零細酪農家、特に女性を支援することにあります。透明性のある支払い体系を確保し、持続可能な収入源と経済的自立を実現するMPOsの設立を促進することでこれを達成します。これらのMPOsは地域変革を牽引し、女性が酪農乳業セクターで主導権を握り、方向性を定め、活躍できる場を創出しています。

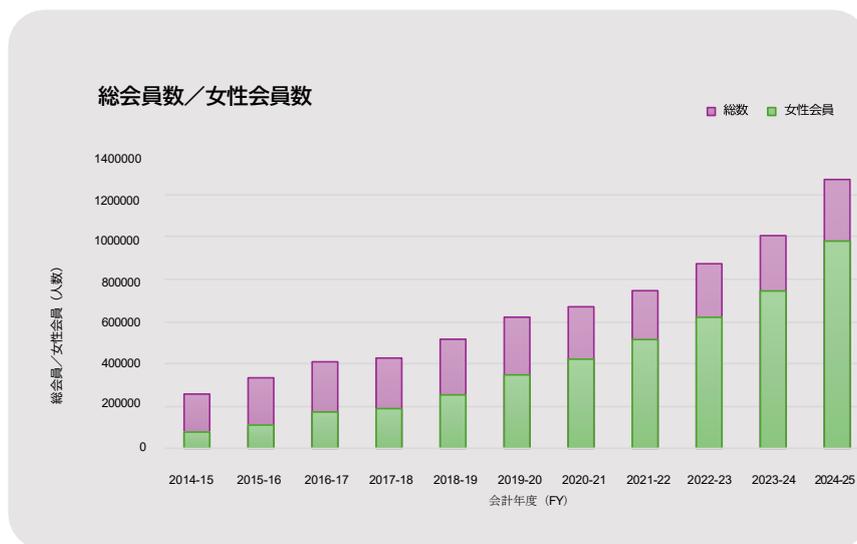


図1. 過去10年間の総会員数と女性会員数 (NDDB酪農サービス提供)

進行中の取り組み

2009年にNDSが設立された当時、農村部の酪農は主に男性主導でした。しかし女性が集乳所 (MPP) を管理したり、衛生管理を担当したり、理事会の議長を務めたりすると、生乳の品質、効率性、収益が向上しました。この事実を踏まえ、NDSは意図的に女性を酪農乳業サプライチェーンの中心に据え、女性のみで構成されるMPOsを立ち上げ、慣習に挑戦し、リーダーシップを育成しました (図1)。また、生産性向上のため、人工授精、予防接種キャンペーン、優れた遺伝的価値を持つ家畜の提供も行いました。

成功の歴史

設立以来、インドで最も支援が行き届いていない地域で100万人以上の女性酪農家を支援してきました。今年、15万人の女性が「ラクパティ・ディディ (Lakhpati Didis)」 (ラクパティはヒンディー語で百万長者、ディディは姉を意味する) になりました。彼女たちは自身の銀行口座を持ち、牛乳代金が直接振り込まれます。

彼女たちは出資金を拠出し、11億8000万ルピーの収入と429億3000万ルピーの売上高を達成しました。収入面を超えて、私たちの取り組みは、自信、意思決定力、そして地域社会からの認知を築いてきました。彼女たちは、今や家族の中で発言権を持ち、家計を形成し、主要な支出を管理し、地域社会のロールモデルとなる未来をリードするリーダーです。

本イニシアチブの意義

NDSは、リーダーシップ育成、技能開発、知識共有のプラットフォームを提供することで、インドの酪農乳業エコシステムにおける女性のエンパワーメントに大きく貢献してきました。女性たちはMPOsで重要な地位を占め、自らの社会経済的地位を向上させる戦略的決定を下しています。最大の課題は、インド農村に根強い社会的規範を克服することでした。これに対し、信頼の構築、当事者意識の醸成、集団としての成長を促すことで、この課題に取り組みました。

透明で公平な生乳代金支払いの仕組みを導入したことで、世帯収入が増加し、家族がより良い栄養、教育、そして全体的な発展にアクセスできるようになりました。このモデルは、女性をリーダーとしてエンパワメントすることが、家族を変革するだけでなく、農村コミュニティ全体を強化し、高い適応性と拡張性を実現することを示しています。

今後の展開と機会

インドでは2億3千万頭の牛を活用し、バイオガス装置を設置することで廃棄物を富に変えています。この装置は牛糞を無料の調理用ガスと有機肥料に変換し、家計負担を直接軽減します。

小規模農場では飼料作物より食用作物の栽培を優先せざるを得ず、夏季の食糧不足・高騰が農家の収益と家畜の健康に深刻な影響を与えています。これに対処するため、我々は12の生産者協同組合(Fodder Plus: FPOs)の設立を支援し、高品質の飼料を安定的に供給できる体制を整えました。これにより、家畜の健康が増進し、収入増にもつながりました。

「NDSにおいて、生乳は単なる商品ではなく変革の手段です。女性が単に参画するだけでなく、全ての取り組みの中心となるような場所では、彼女たちは牛乳を注ぐだけでなく可能性を注ぎ込んでいるのです。彼女たちは変革の担い手であり、酪農を通してガバナンスを推進し、政策を形作り、コミュニティに力を与えているのです。」

これらの共同体は、地域企業として機能しながら、新たなバリューチェーンを伝統的な作付けパターンに結びつけ、小規模生産者の収入多様化と家計・農村の強靱性強化を支援しています。

詳細情報

<https://www.ndbdairy.com/>



メンバーグループ会議



安全で持続可能な酪農乳業で世界に栄養を供給する支援を行っています。

IDF は、酪農乳業チェーンのすべてのステークホルダーのための科学的・技術的専門知識の優れた情報源です。1903年以来、IDF は、安全で持続可能な牛乳乳製品でどのように世界の食料供給を支援するかについて、全世界の総意に到達するための仕組みを酪農乳業セクターに提供してきました。

IDF は、酪農乳業セクターのために科学に基づく規格開発を行う国際機関として認められており、世界の牛乳乳製品が安全で持続可能であることを確保するため、適正な政策、規格、実践、および規制の確実な実施において果たすべき重要な役割があります。



国際酪農連盟

70/B, Boulevard Auguste Reyers

1030 Brussels - Belgium

Tel: +32 2 325 67 40

Email: info@fil-idf.org

 @FIL_IDF

 国際酪農連盟

 <https://bsky.app/profile/fil-idf.bsky.social>

 www.fil-idf.org